

Ⅱ

管内の状況

- 1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布
- 2 管内の状況、今後の改善方策



HOKKAIDO
BOARD OF
EDUCATION

ここでは、令和7年度全国学力・学習状況調査における各管内の結果について、
・管内の平均正答率・IRTバンドの分布
・管内の状況及び今後の改善方策
を掲載しています。

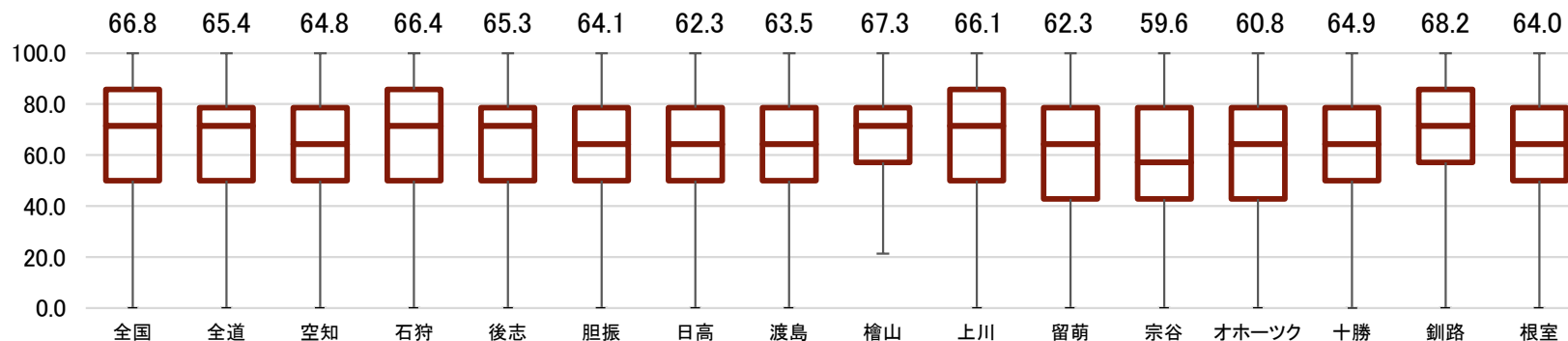
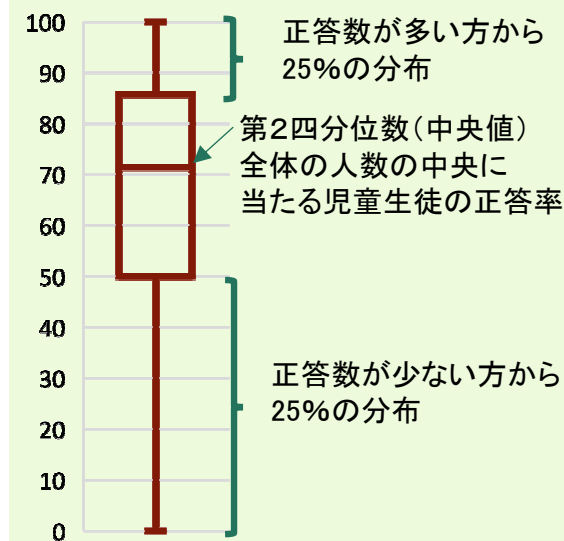
各市町村教育委員会及び学校においては、本資料を参考に、管内の状況や改善の方向性等を共有するとともに、今後の取組を工夫・改善するなど、取組の一層の充実に御活用ください。

1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布

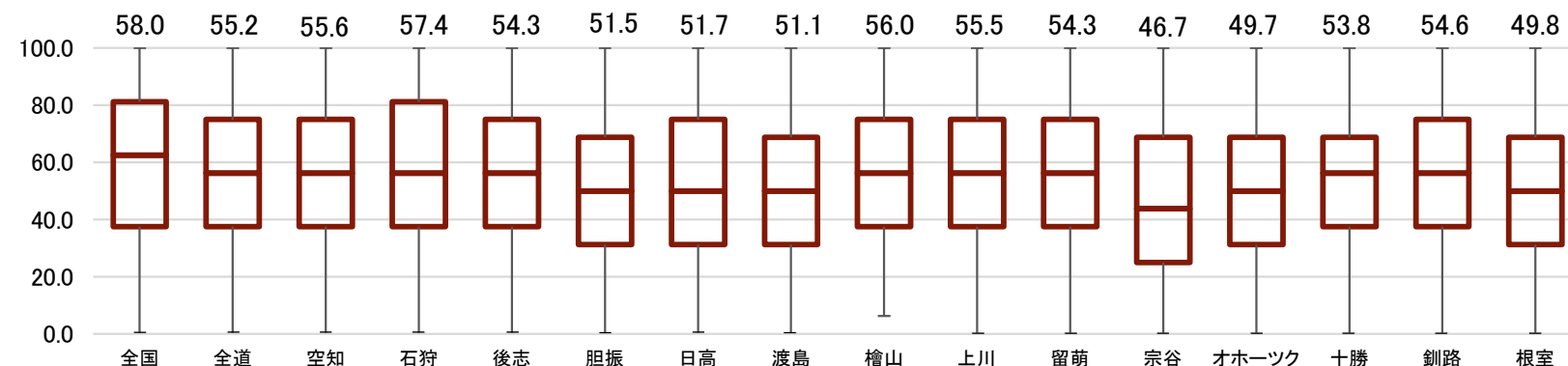
小学校国語

※箱ひげ図の上の値は、平均正答率

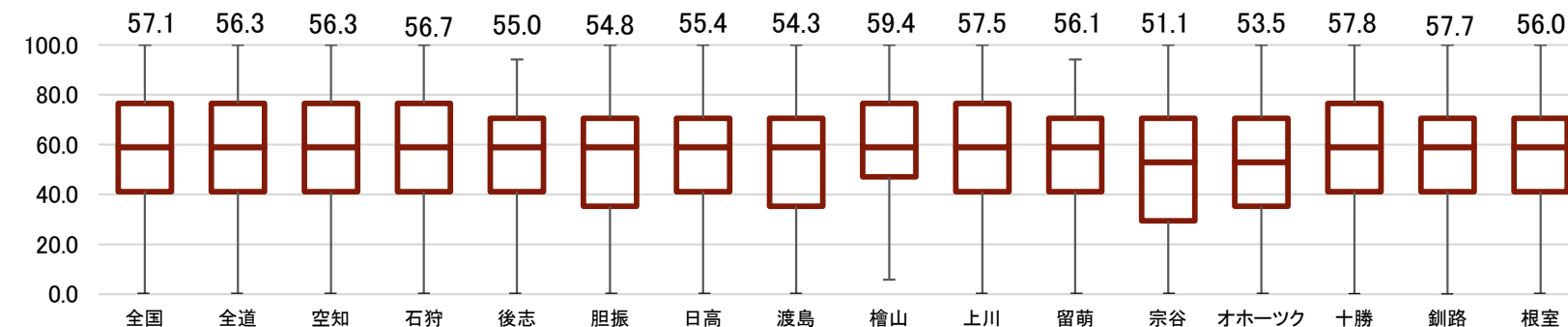
＜箱ひげ図の見方＞



小学校算数



小学校理科



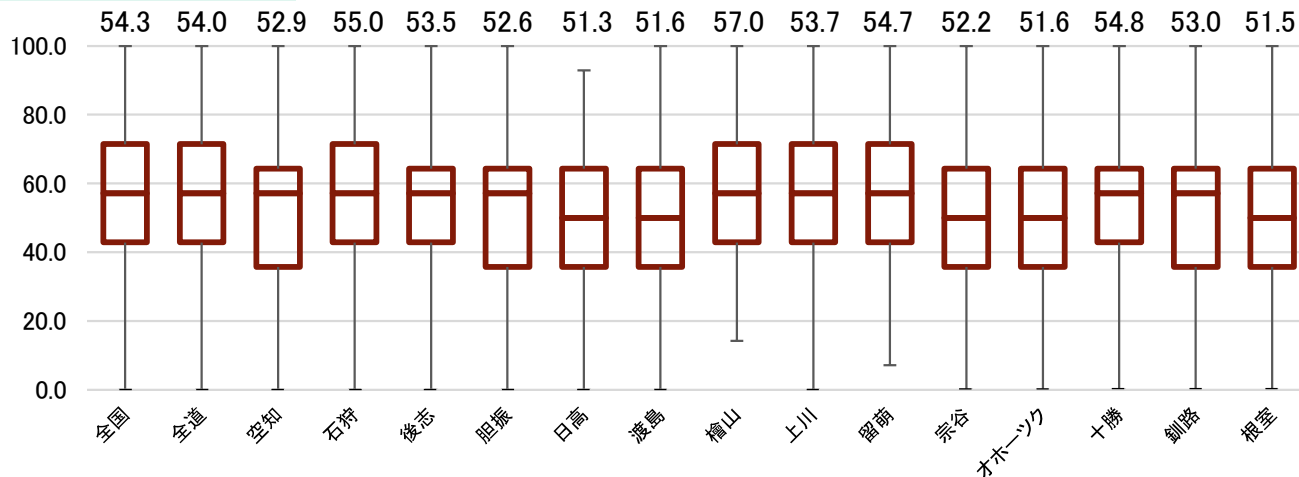
＜分析＞

- 小学校国語及び小学校理科の正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。
- 小学校算数の正答率の分布は、他の教科に比べて箱が長く、得点の分布の幅が大きいいため、一定のばらつきは見られるものの、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

1 管内の平均正答率・IRTバンドの分布

中学校国語

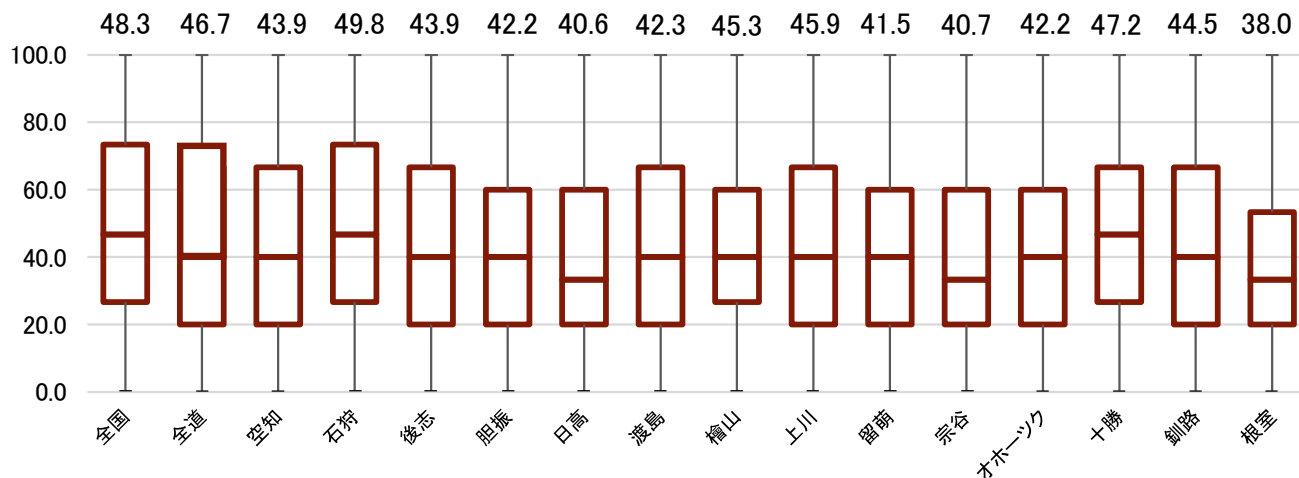
※箱ひげ図の上の値は、平均正答率



<分析>

中学校国語の正答率の分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

中学校数学



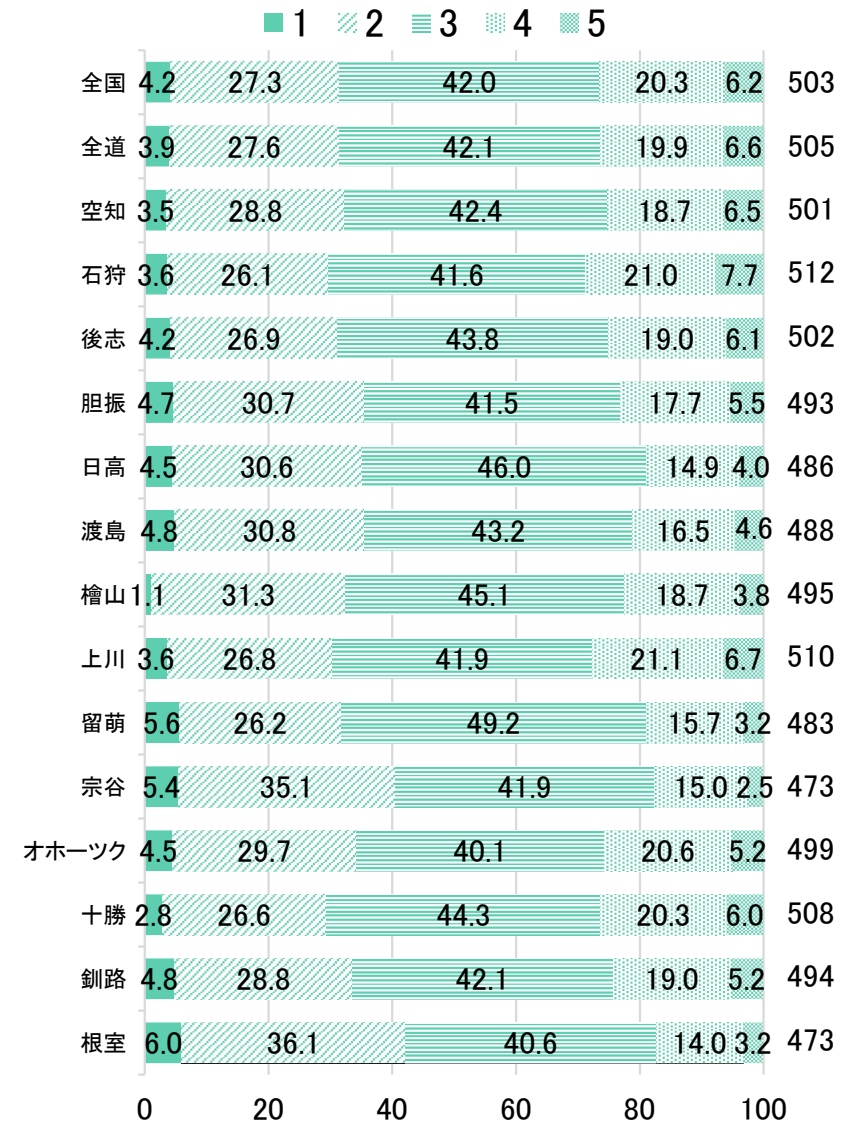
<分析>

中学校数学の正答率の分布は、他の教科に比べて箱が長く、得点の分布の幅が大きいため、一定のばらつきは見られるものの、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

中学校理科

※分布の右の値は、平均IRTスコア

中学校理科は、IRTバンド分布比較



<分析>

中学校理科のIRTバンド分布は、全国的なばらつきの傾向と大きな差は見られません。

空知管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:56校、児童数:1554人 中学校数:37校、生徒数:1621人

○ 教科に関する調査の状況

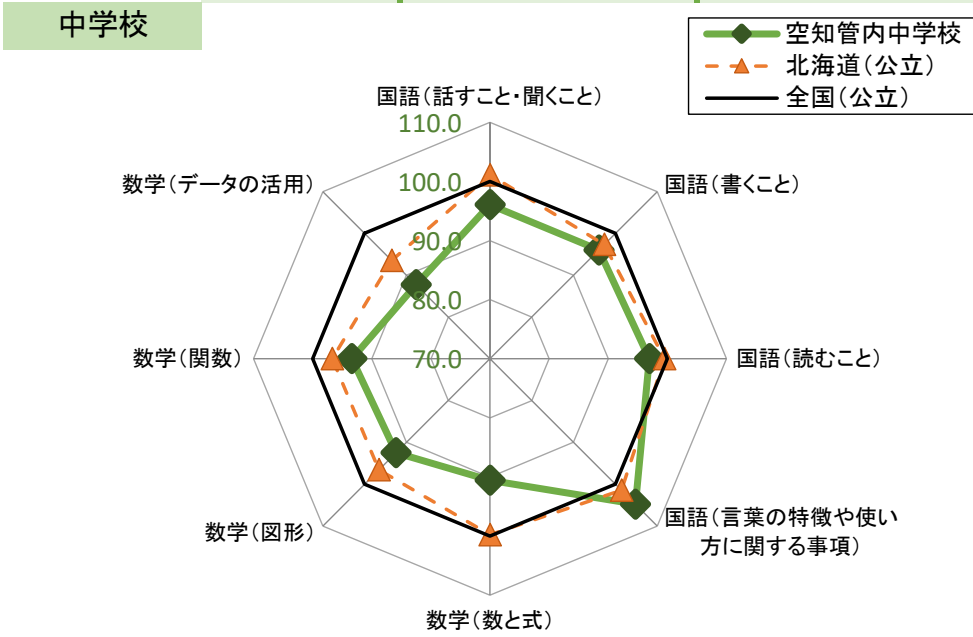
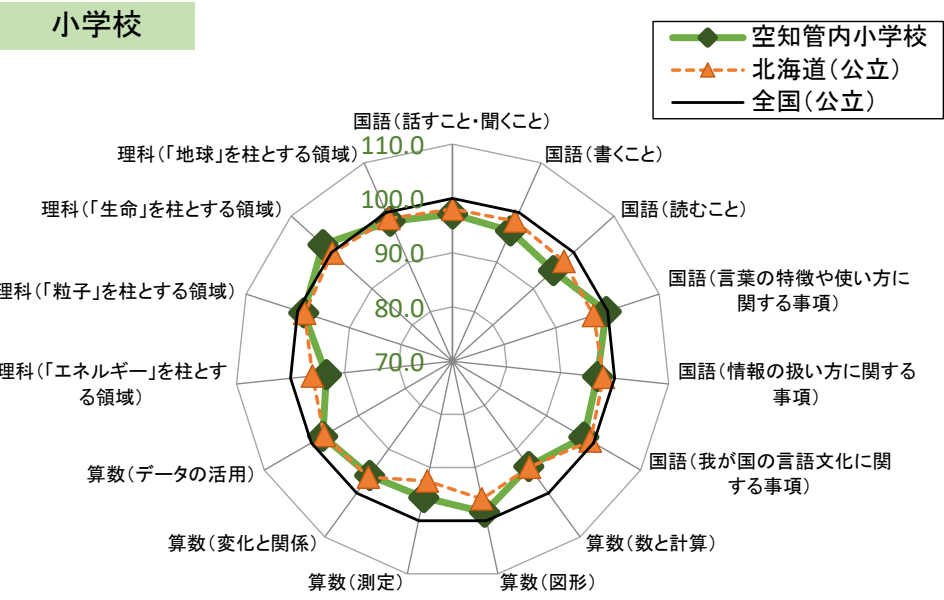
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

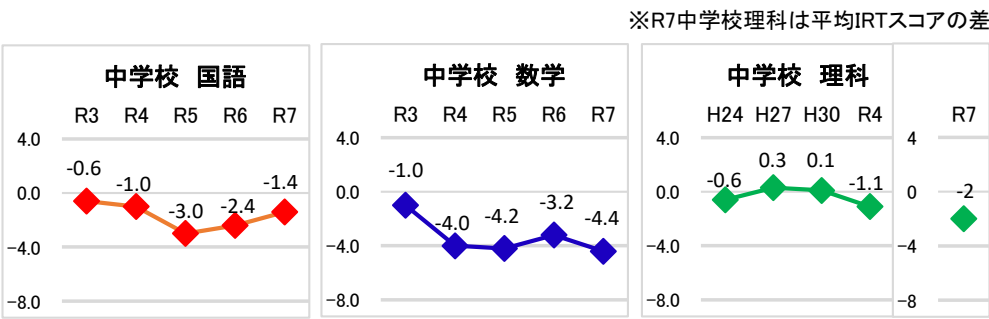
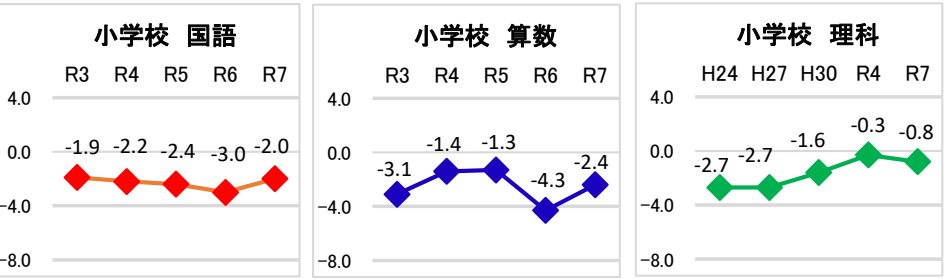
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
空知管内	64.8	55.6	56.3	52.9	43.9	501
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

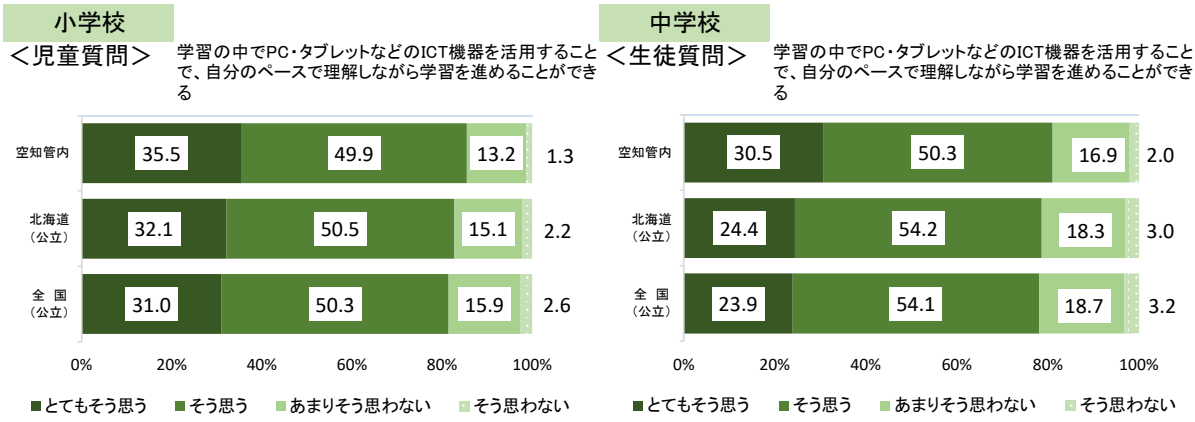
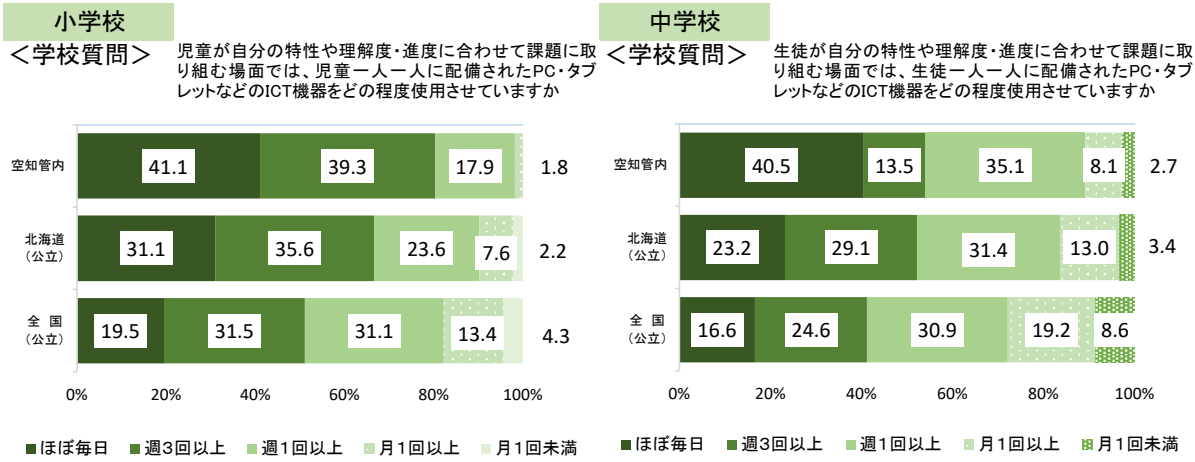


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

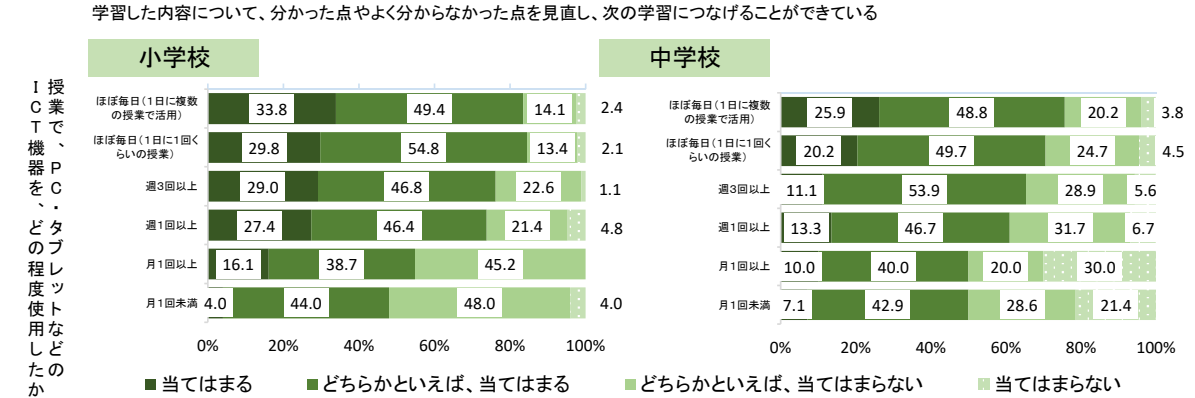


※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した児童の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答した生徒の割合が、全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させているが、各教科の平均正答率が全国を下回っていることから、児童生徒の資質・能力の育成につながるICT機器の効果的な活用に向けた取組を一層充実させる必要がある。
- ・ 小学校及び中学校において、授業で、PC・タブレットなどのICT機器を活用している頻度が高いと回答した児童生徒ほど、「学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ EBE協議会において、学力調査等を活用した取組の好事例や「クラウド・アプリを活用した学び」の実践事例を共有し、児童生徒の資質・能力につながる効果的な活用について、オンデマンド研修、直接的な指導助言及び協議を設定し、取組の促進を図る。
- ・ 学校教育指導において、第2回EBE協議会と連動させ、「子どもの良質な教材としての調査問題の活用」及び「クラウド・アプリを活用した学び」の進捗状況を見取り、オンデマンド研修を踏まえた指導主事による指導助言を充実させる。
- ・ 各地域の特色、実情に応じた方策として、校種を超えた効果的な遠隔授業、小規模校間の遠隔授業及び小中高一貫の学習アプリの活用促進に向けて、各市町が自走可能な児童生徒の資質・能力の育成を目指すICT活用について、指導助言及び先行事例の共有を行う。

石狩管内の状況及び今後の改善方策

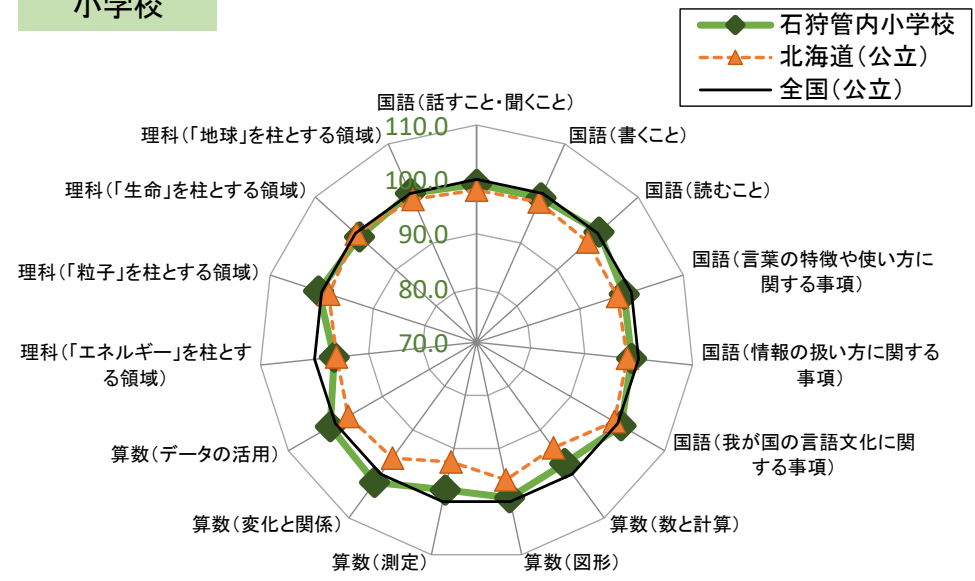
小学校数:259校、児童数:16835人 中学校数:136校、生徒数:15973人

教科に関する調査の状況

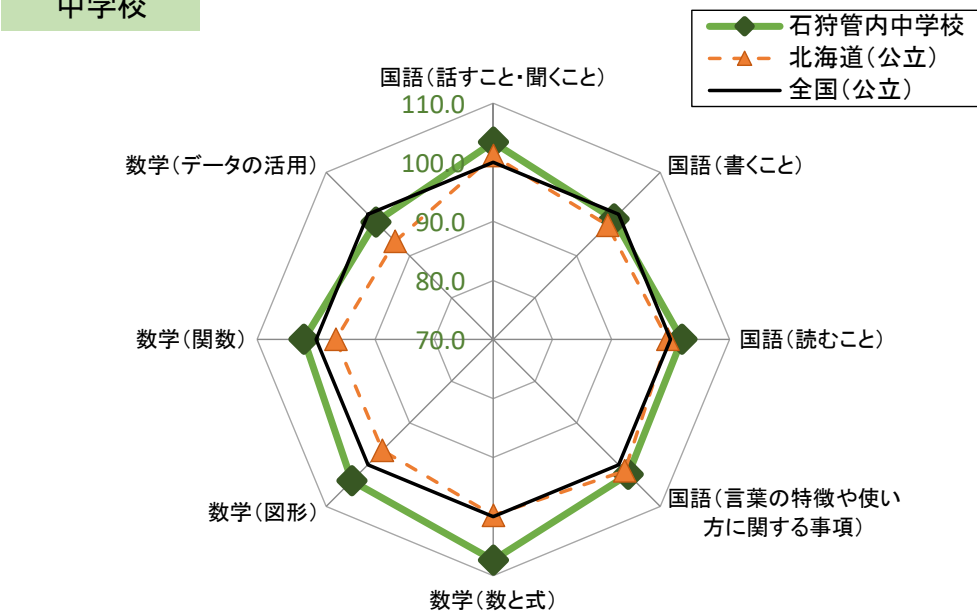
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校



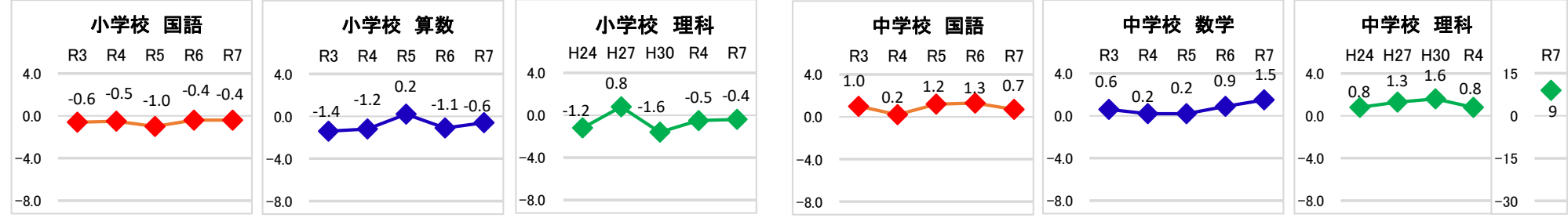
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
石狩管内	66.4	57.4	56.7	55.0	49.8	512
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

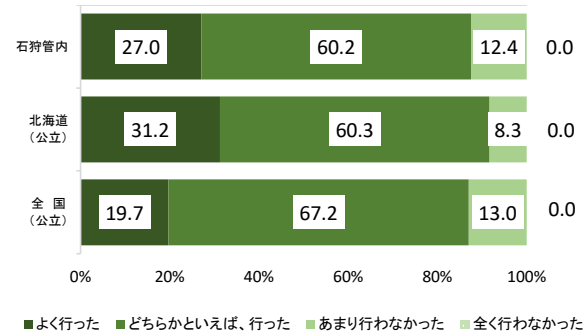


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

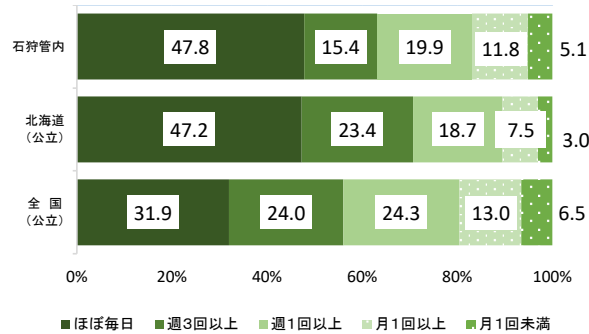
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



中学校

<学校質問>

教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童が各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたと回答した学校の割合が全国を上回ったが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童の割合が全国及び全道を下回っており、全ての児童の実感につながっていないことが要因の一つとして考えられる。

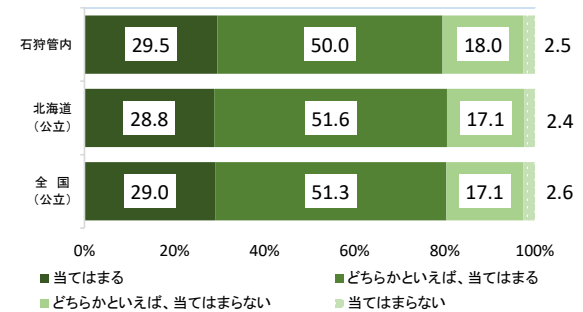
- 中学校において、教職員と生徒がやりとりする場面で、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用したことにより、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使用することで、楽しみながら学習を進めることができますか」の質問に、「とてもそう思う」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

- 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

小学校

<児童質問>

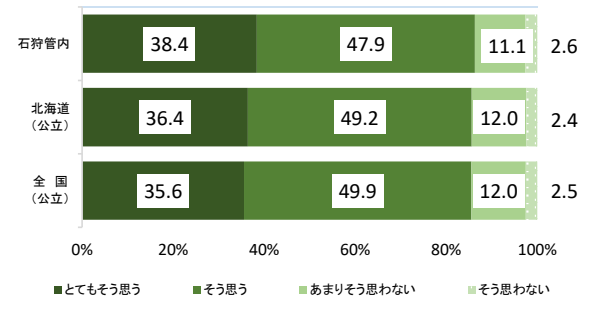
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



中学校

<生徒質問>

学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができますか



○ 具体的な改善方策

【学校教育指導訪問における指導助言】

- 学校教育指導訪問の指導助言を通して、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実について共通理解を図ることなどにより、資質・能力を確実に身に付ける授業を実現し、正答数の少ない層の児童生徒の減少を目指す。

【管内独自で実施する授業力向上研修】

- 各市町村を対象にした授業づくりセミナーで、子ども一人一人への資質・能力の確実な育成に向けた単元づくりについて共通理解を図る。

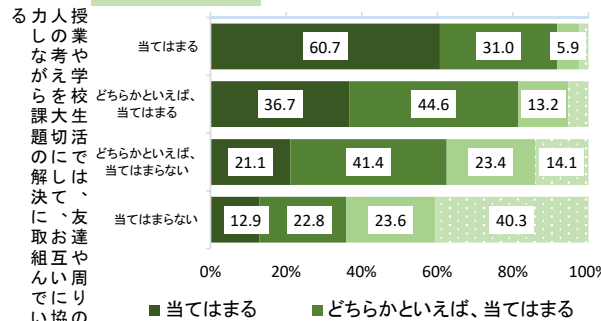
【各種指定事業の活用】

- 学校力向上に関する総合実践事業、新しいかたちの学びの授業力向上推進事業及びEBE協議会など各種指定事業を活用し、管内教育推進の重点である「子ども一人一人の確実な指導」及び「学校組織マネジメントの充実」を図ることにより、組織的な授業改善を推進する。

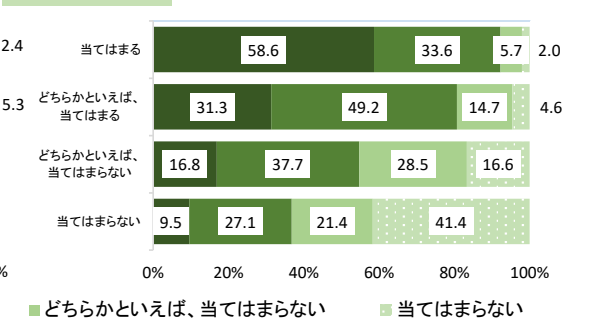
<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>

学校に行くのは楽しいと思う

小学校



中学校



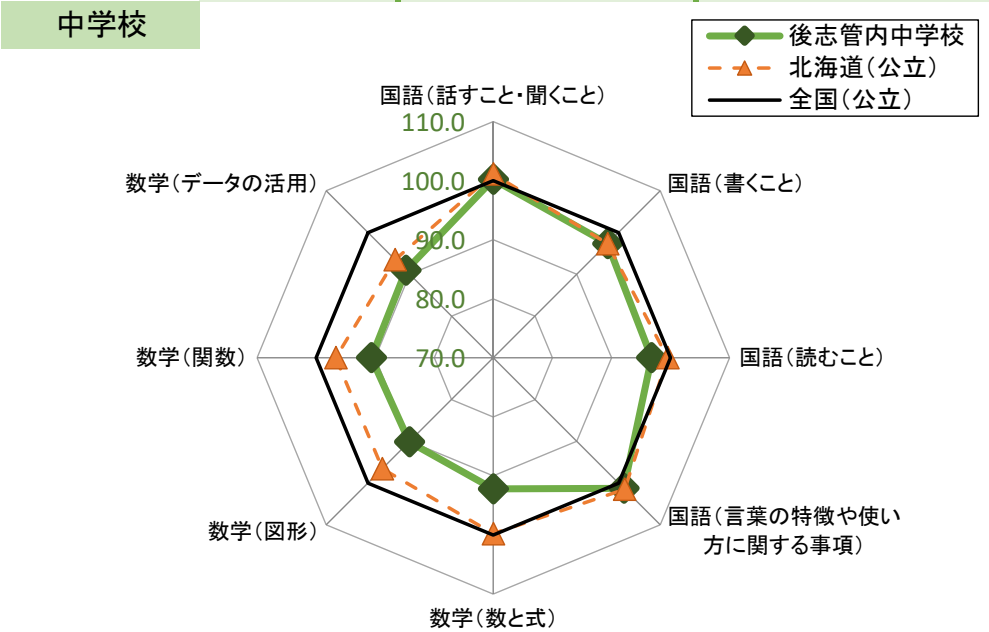
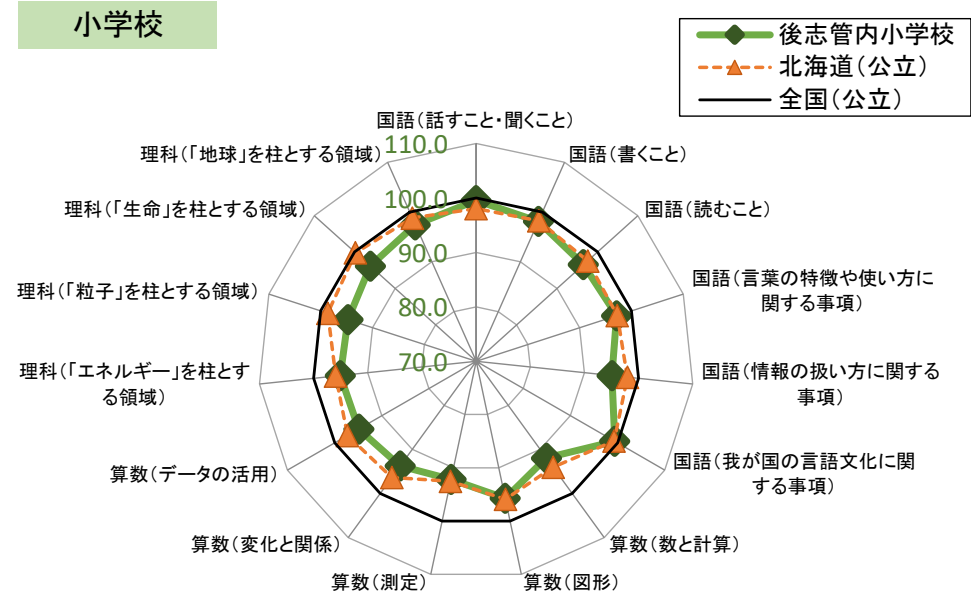
後志管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:53校、児童数:1154人 中学校数:36校、生徒数:1145人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



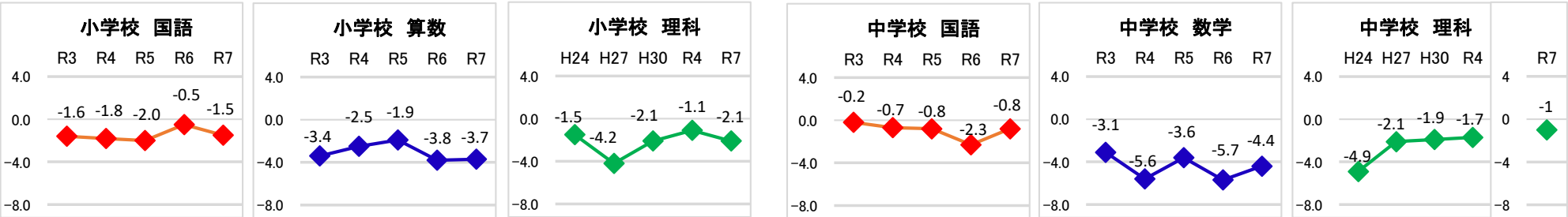
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

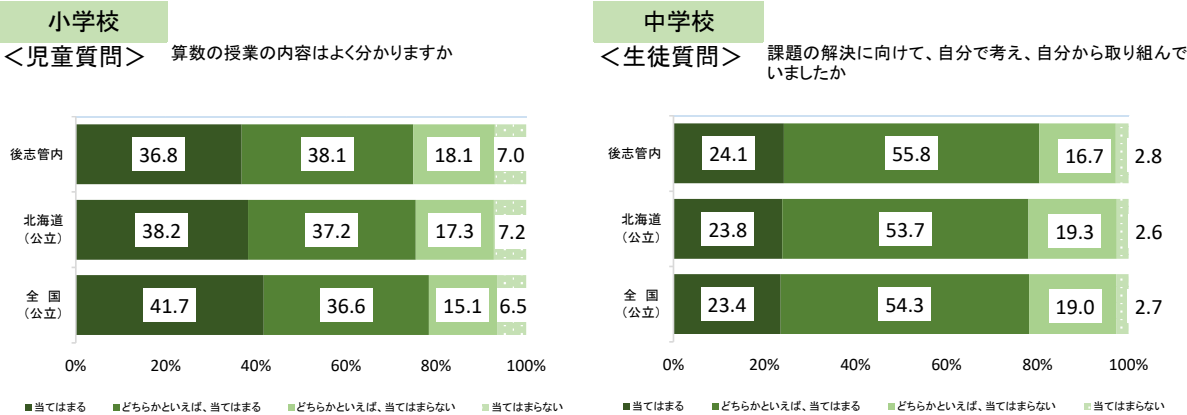
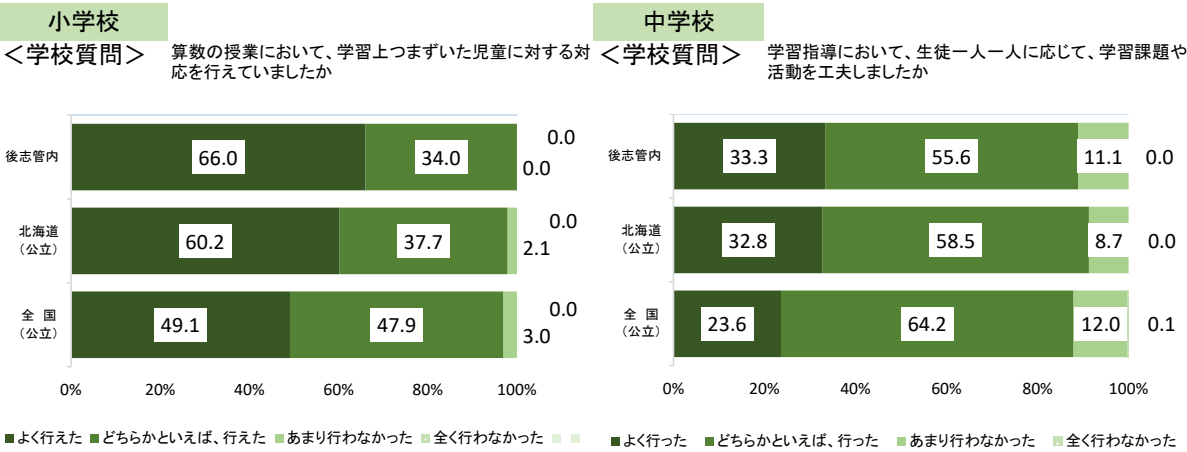
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
後志管内	65.3	54.3	55.0	53.5	43.9	502
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

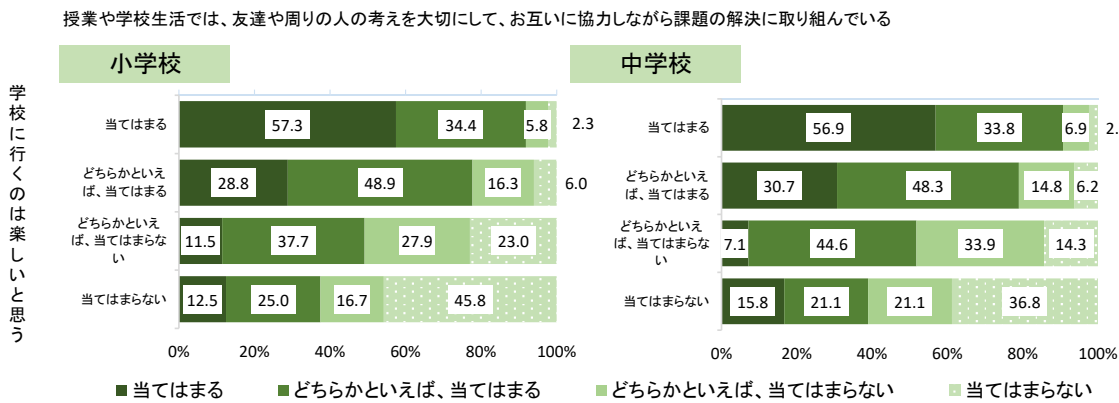
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、算数の授業で、学習上つまづいた児童に対する対応を行っていたと回答した学校の割合が全国及び全道を上回っているが、算数の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、「算数の授業の内容はよく分かる」と回答した児童の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 中学校において、学習指導で、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したことにより、「課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 【好循環を創出する検証改善サイクルの充実】
- ・ 教育課程編成の力量の向上に向けた支援として、義務教育指導監による2回の経営訪問において、全ての学校に調査結果を活用した教育課程の改善について指導助言を行う。
 - ・ 異動校長・採用校長・昇任教頭への支援として、全ての管理職が年度当初から教育課程に基づいた学校経営ができるよう、集合研修と局長・次長・義務教育指導監との個別の学校経営懇談を実施する。
 - ・ 小中高の連携に向けた支援として、義務教育指導監による小中高連携協議会などを通して、地域への愛着を育むよう、系統的な取組を実施する。

【子どもを主語にした深い学びのある授業の推進】

- ・ 委員会と一体となった学習習慣の改善に向けて、支援課長と指導主事による委員会・学校に対する児童生徒質問を含む調査結果の分析についての説明と授業改善等に関わる協議を行う。
- ・ 教育課程編成の力量の向上に向けた支援として、各学校が自走できるよう、「管内の各種教育活動の推進校一覧」を作成し、義務教育指導監から各学校の課題解決に向けて適した視察校、連携すべき校長を提示し、経営力や指導力を高めあう体制を構築する。
- ・ 授業改善を進める集団づくりに向けた支援として、数学・外国語の中核教員により、授業改善に向けたポイントを先生方に発信する。

胆振管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:61校、児童数:2483人 中学校数:42校、生徒数:2409人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

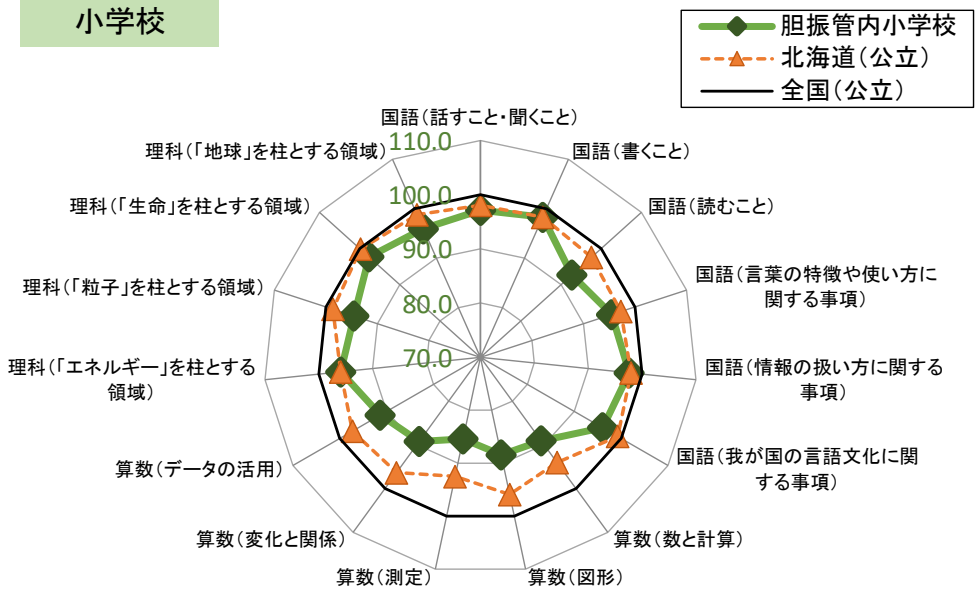
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

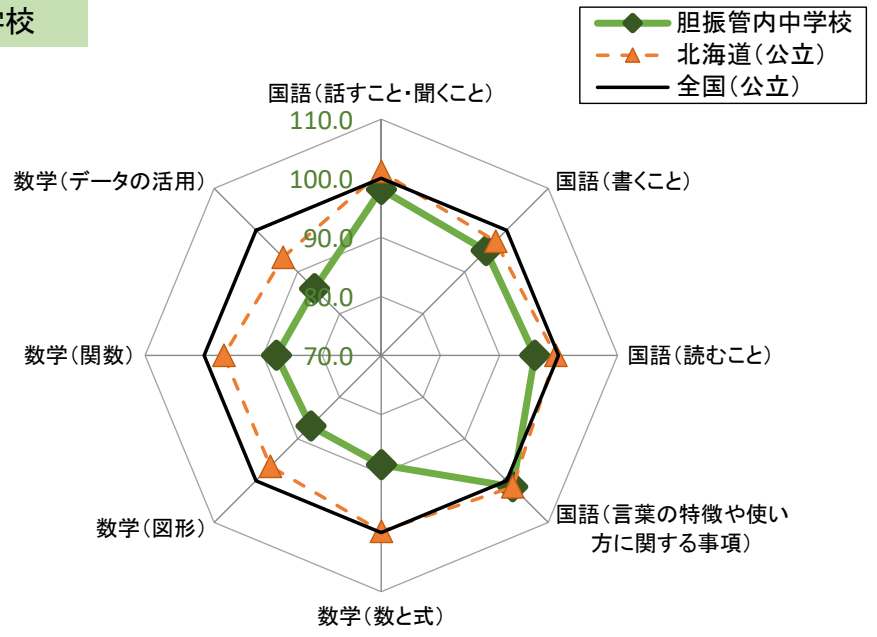
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
胆振管内	64.1	51.5	54.8	52.6	42.2	493
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

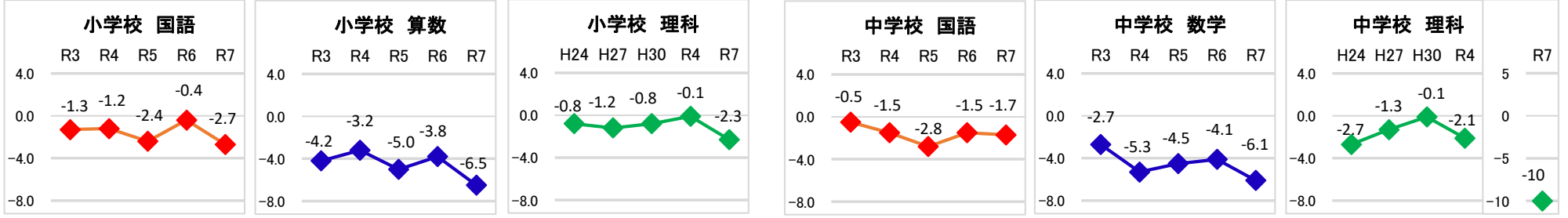


中学校



【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

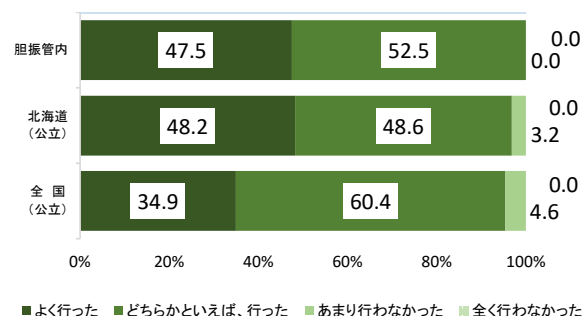


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

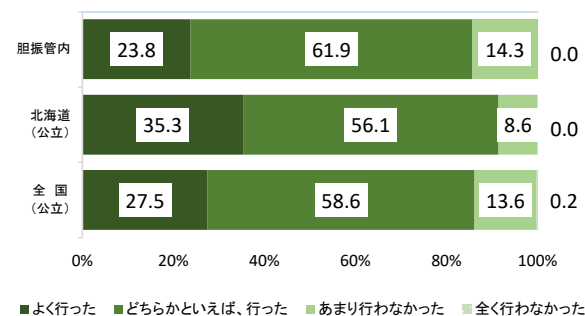
学習指導において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか



中学校

<学校質問>

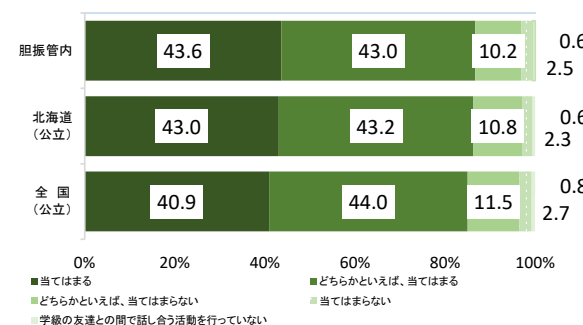
授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



小学校

<児童質問>

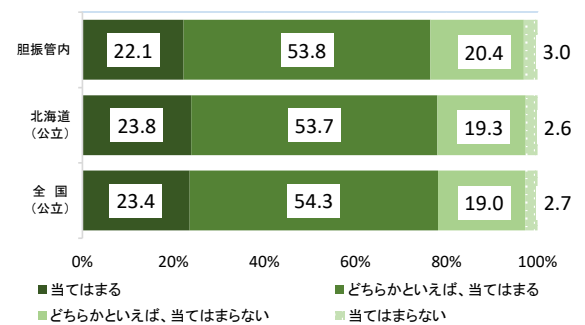
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



中学校

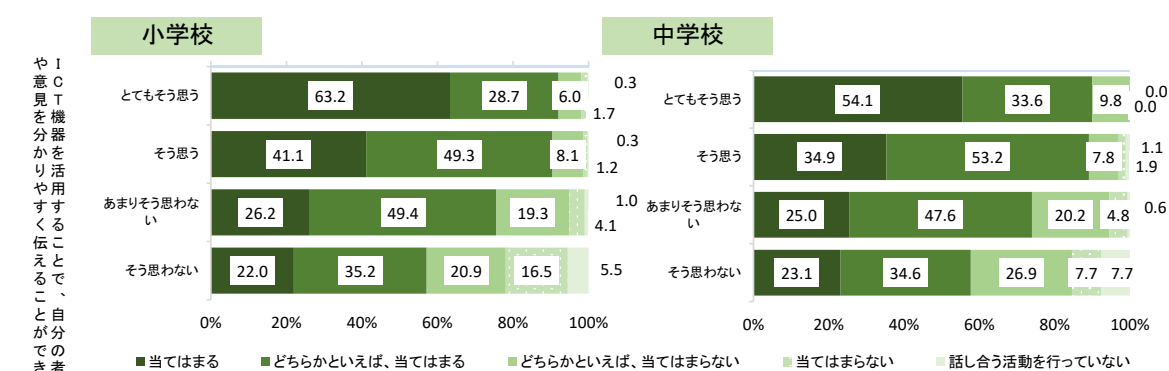
<生徒質問>

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができます



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童がそれぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 中学校において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 胆振教育局コミュニティ「たんコミ」による、日常の授業づくり等に関する教員のニーズに応じた個別支援を行う。
- 校種を超えた教員間のICTの効果的な活用に係る協議を位置付けたICT活用胆振管内協議会を開催する。
- 学力調査官の講話を位置付けた胆振管内授業改善研修会(国語科、算数・数学科)を開催する。
- 組織的な授業改善や学力向上等に係る取組の実践発表を位置付けたEBE協議会を開催する。
- 学校教育指導訪問等の際に、「自立した学習者」の育成に向けた授業改善について、指導資料を基に指導助言する。

日高管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:22校、児童数:383人 中学校数:14校、生徒数:424人

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

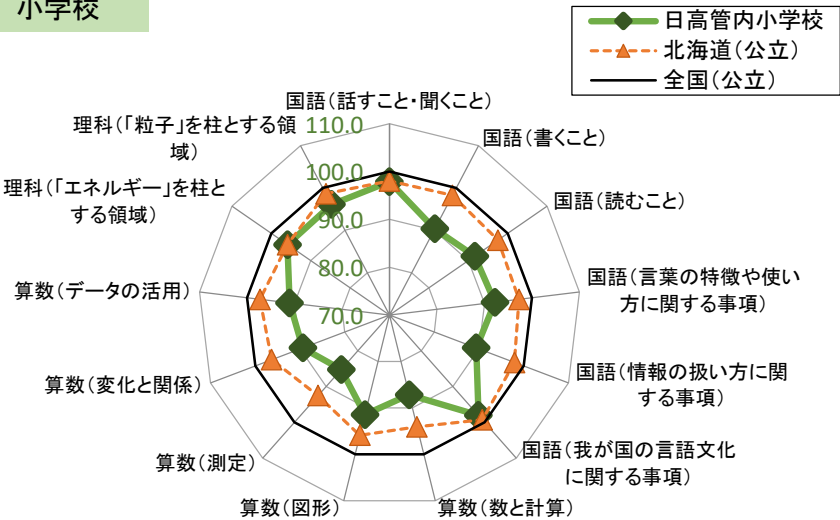
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

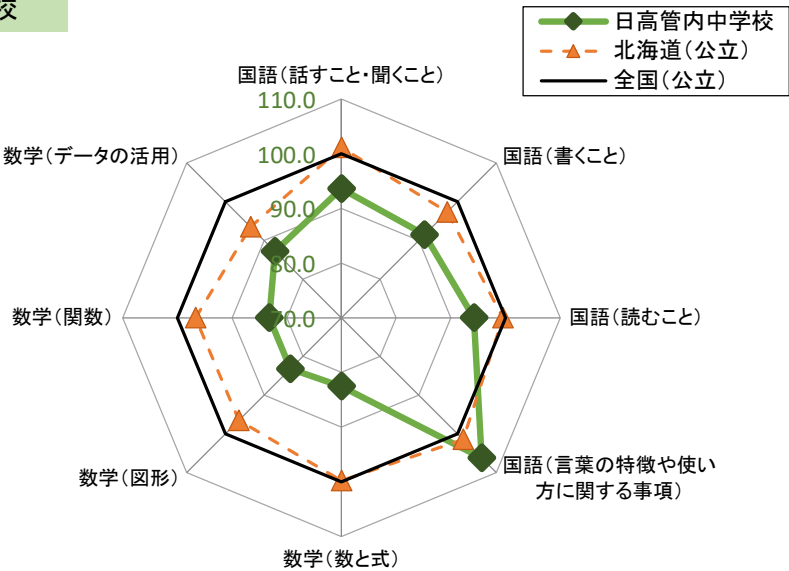
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
日高管内	62.3	51.7	55.4	51.3	40.6	486
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

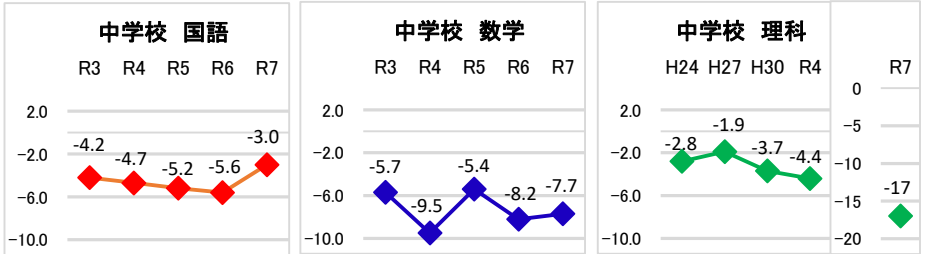
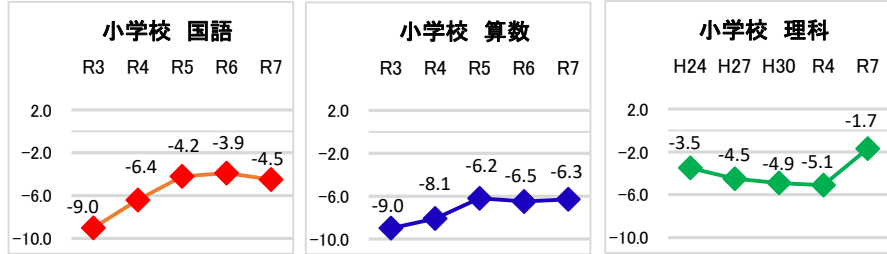
小学校



中学校



【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

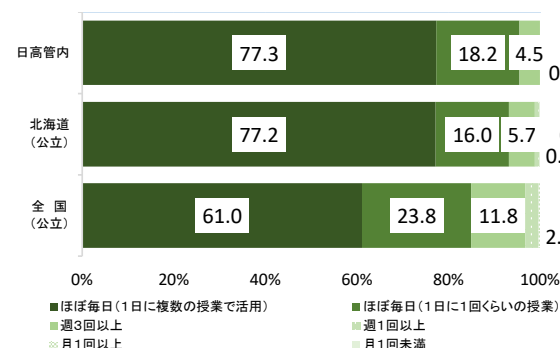


○ 質問調査の状況

小学校

<学校質問>

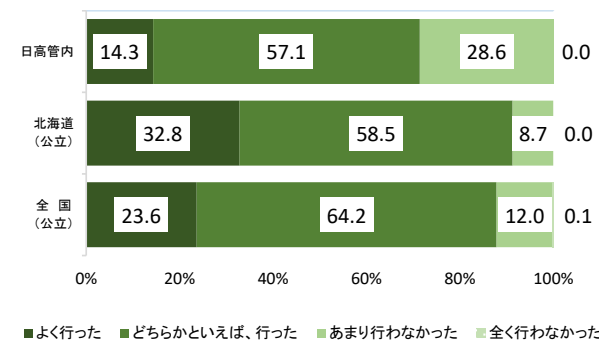
児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



中学校

<学校質問>

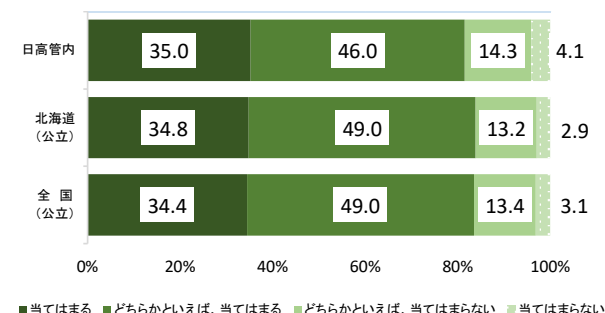
学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか



小学校

<児童質問>

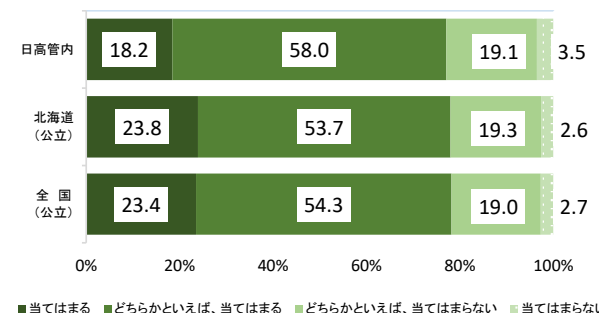
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



中学校

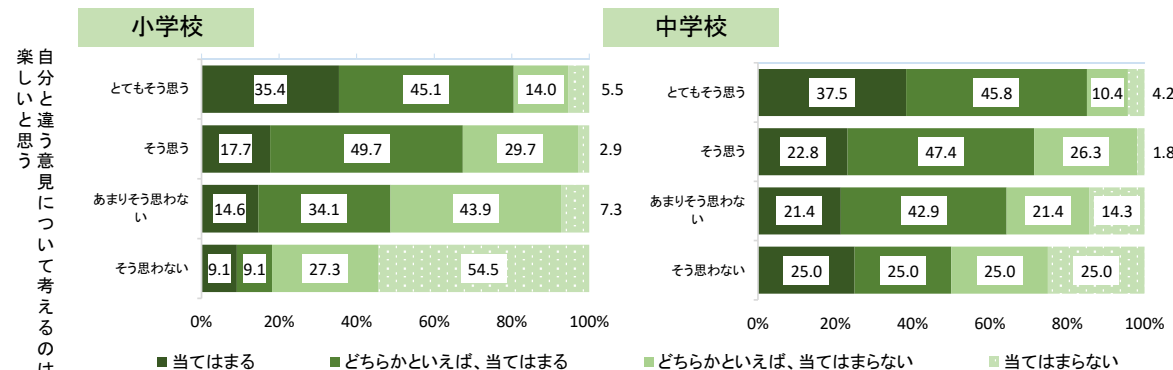
<生徒質問>

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



<クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）>

ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用したことにより、「授業は自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」の質問に対して「当てはまる」と回答した児童の割合が全国及び全道と同程度となったと考えられる。
- ・ 中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」の質問に肯定的に回答した児童生徒ほど、「ICT機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ 小学校、中学校ともに、すべての教科で全国の平均正答率を下回っていることから、学校教育指導訪問や各種研修等を通して、指導と評価の一体化による授業改善について学習指導案や授業場面を用いて、具体的に指導助言する。
- ・ 児童生徒自身が自主的、自律的に学ぶことができるよう、ICT機器を効果的に活用した授業改善や、授業と連動した家庭学習の取組を推進する。
- ・ 全国との平均正答率の差が改善傾向にある教科もあることから、各学校で行われている好事例を指導資料等の作成に活用し、管内に広く普及するとともに、それらを活用した授業改善の取組を推進する。

渡島管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:75校、児童数:2166人 中学校数:40校、生徒数:2114人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

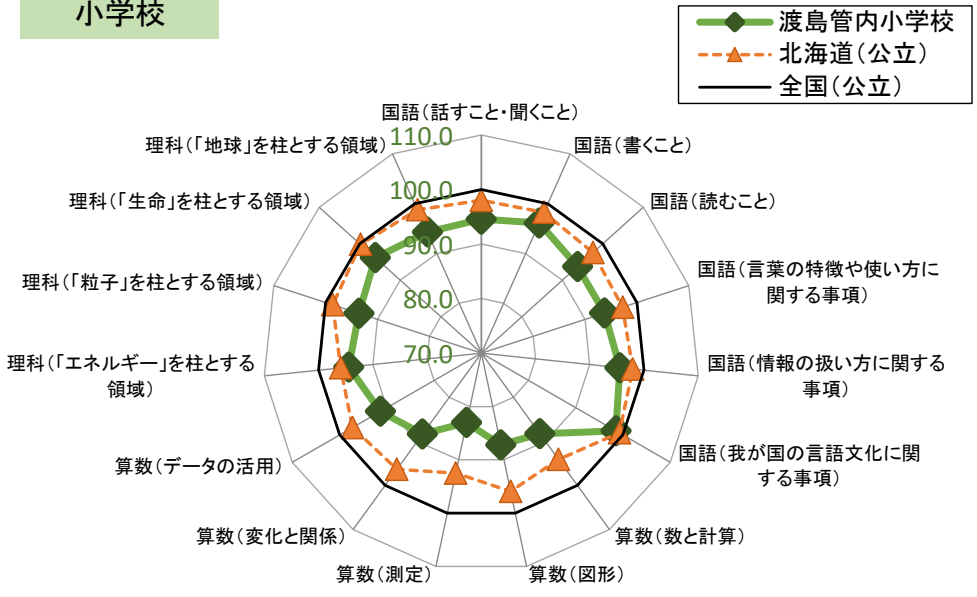
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

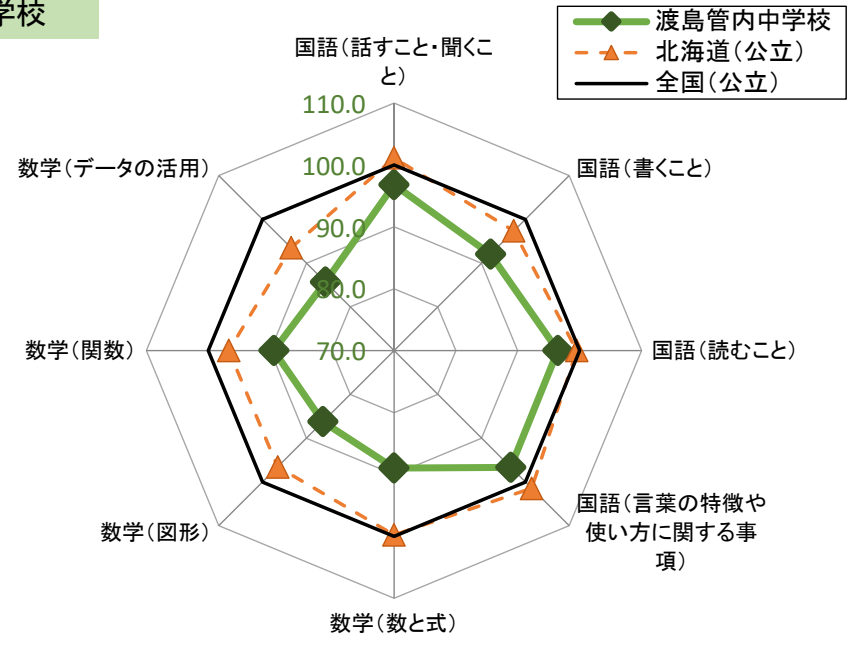
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
渡島管内	63.5	51.1	54.3	51.6	42.3	488
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

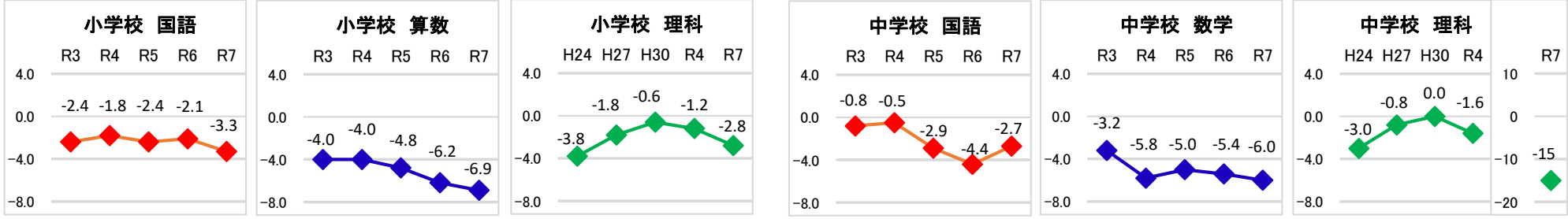


中学校



【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

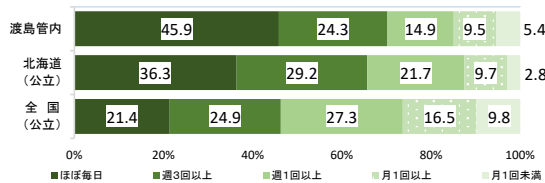
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況

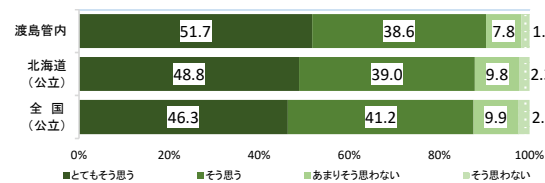
小学校

＜学校質問＞ 調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



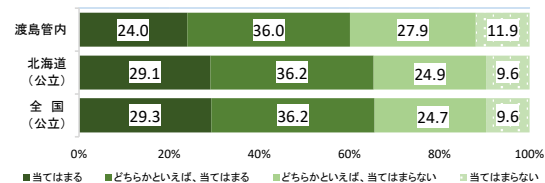
小学校

＜児童質問＞ 5年生までの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる



小学校

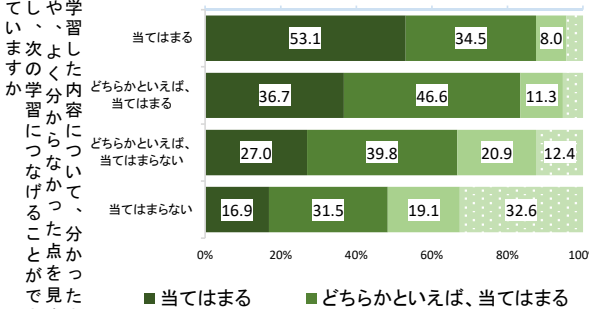
＜児童質問＞ 算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞

学校に行くのは楽しいと思いますか

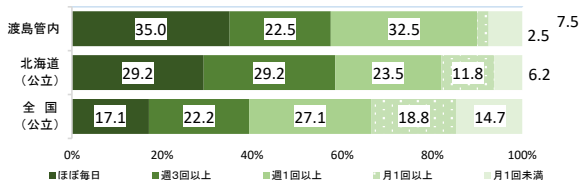
小学校



てしや学
い、習
ま、次
す、よ
か、く
学、分
分、内
に、容
に、こ
つ、ら
な、い
け、つ
な、い
か、つ
こ、分
と、点
が、か
が、つ
で、見
た、き
直、点

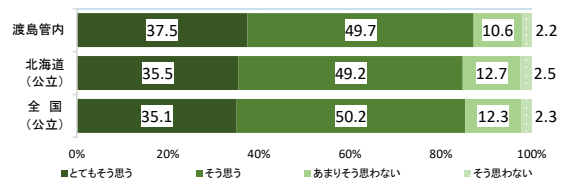
中学校

＜学校質問＞ 調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



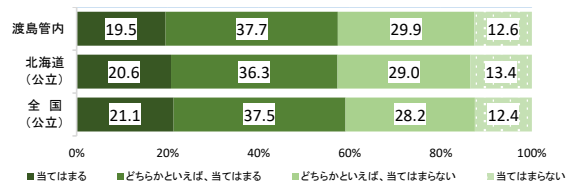
中学校

＜生徒質問＞ 1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる

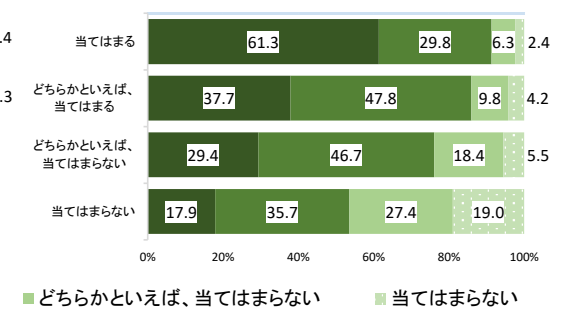


中学校

＜生徒質問＞ 数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか



中学校



○ 調査結果の分析

- 小学校及び中学校において、児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させたことにより、「友達と協力しながら学習を進めることができる」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 小学校及び中学校において、算数及び数学の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、「どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っている」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる」と回答した児童生徒ほど、「学校に行くのが楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 学校経営指導訪問及び学校教育指導訪問において、管内教育推進の重点に係る評価「カリキュラム・マネジメントSignpost」に基づく指導助言を行う。
- 教育局独自研修「義務教育担当指導主事並びに学校教育担当係長等研修会」において、調査結果の分析を踏まえた渡島管内の課題を共有し、課題の解決に向けた取組について協議を行う。
- 教育局独自事業「授業改善プロジェクト」において、個々の教員の授業改善を図る「個人プロジェクト」を行うとともに、校内研修の効果的な推進等について学校の研修担当者や協議し校内研修の充実を図る「学校プロジェクト」を行い、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図る。
- 教育局独自の取組として、「渡島学びの共創コンソーシアム」を構築し、コンソーシアムを中核とし、学力向上について、渡島管内全ての教員が自分事として捉え、授業改善に取り組む仕組みを構築する。
- 学校教育指導訪問等において、見通しと振り返りを位置付けた授業づくりや、児童生徒一人一人の学び方を保証し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることが、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につながることにについて指導助言を行う。
- 学校教育指導訪問等において、小学校及び中学校が連携し学びの連続性を踏まえた教育課程を編成することにより、教科指導等での取組がより充実することについて指導助言を行う。

檜山管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:15校、児童数:167人 中学校数:10校、生徒数:179人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

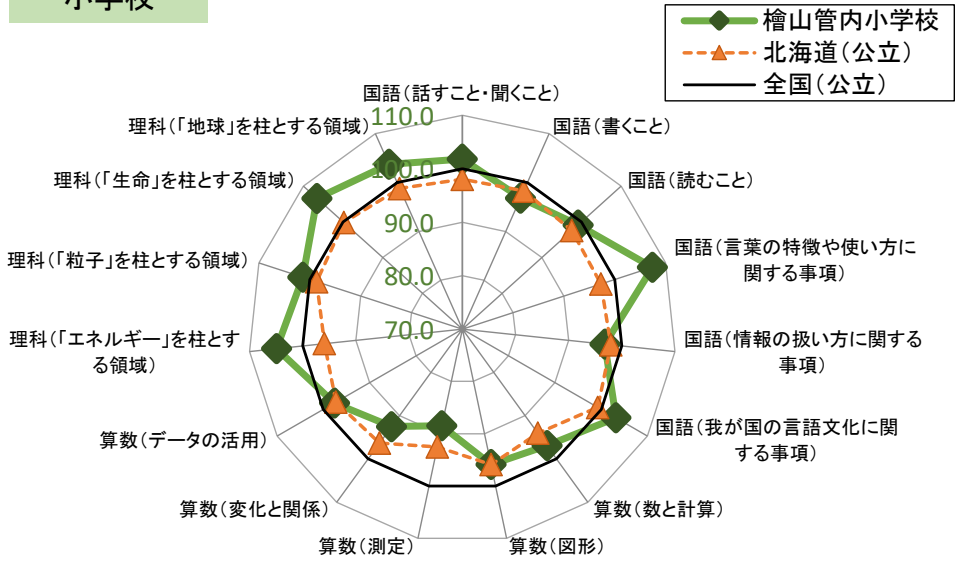
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

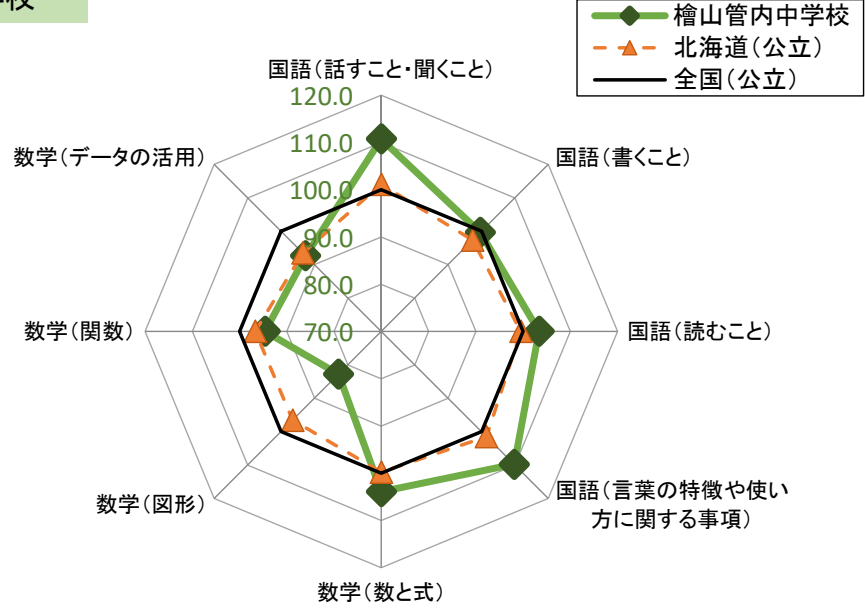
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
檜山管内	67.3	56.0	59.4	57.0	45.3	495
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

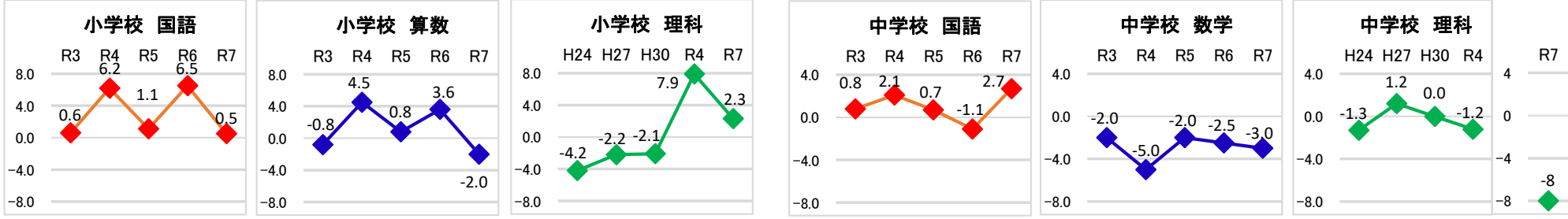


中学校

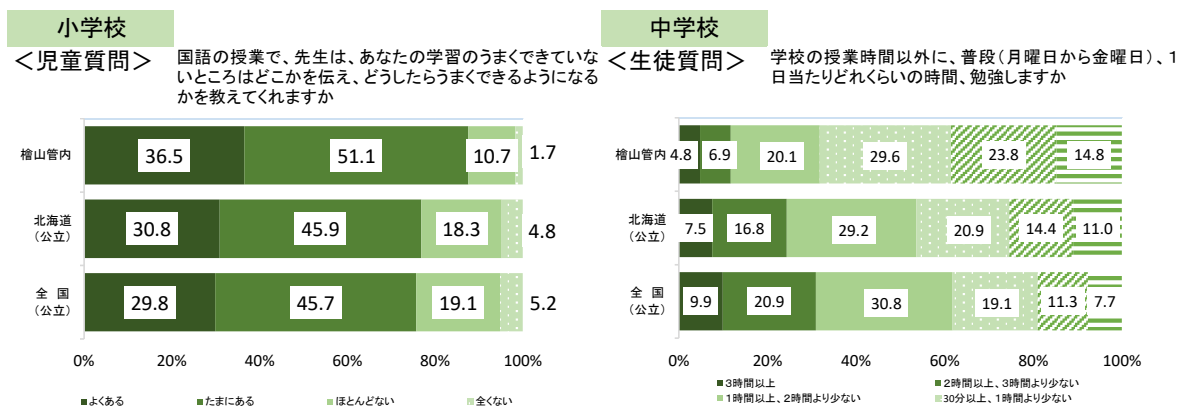
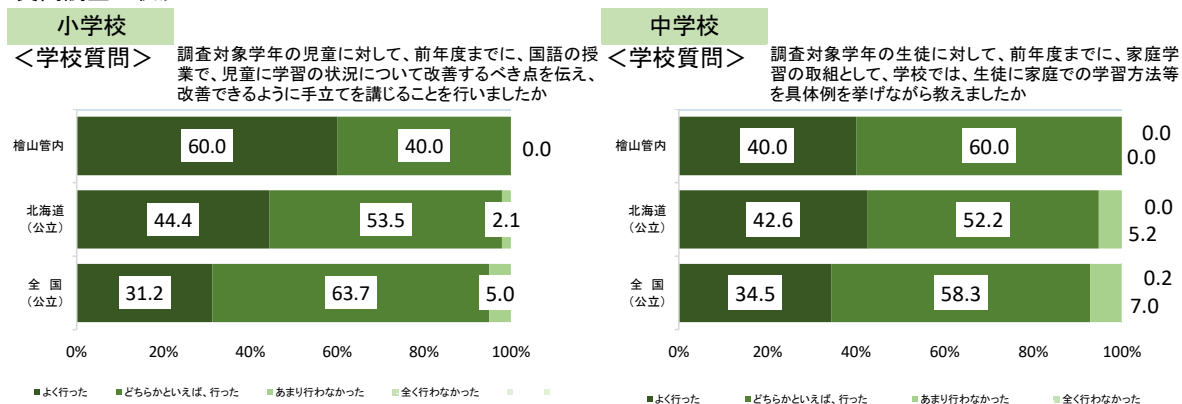


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

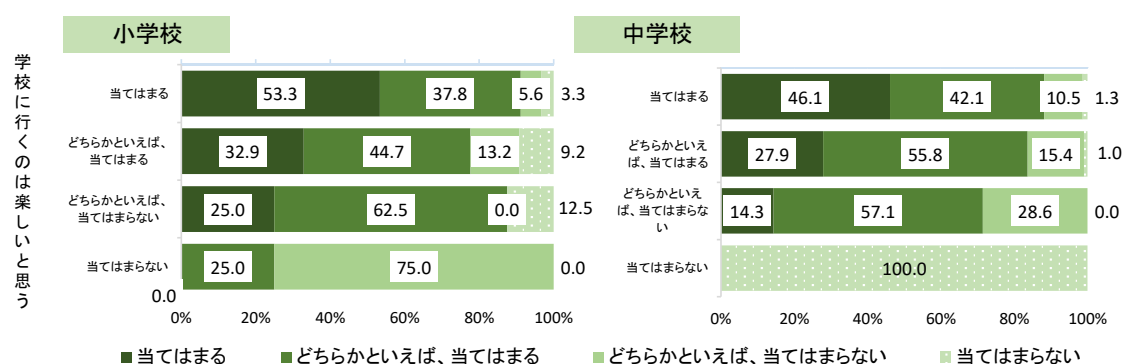


○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、国語の授業で、児童に学習の状況について改善するべき点を伝え、改善できるように手立てを講じたことにより、「国語の授業で、先生は、あなたの学習のうまくできていないところはどこかを伝え、どうしたらうまくできるようになるかを教えてくれる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している。」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「家庭学習の取組として、学校では、生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながらよく教えた」と回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学校に行くのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

【学力向上に関する指導・助言の質の向上】

- ・ 学校経営指導訪問及び学校教育指導訪問における指導の観点や助言の方向性を運動させることなどにより、児童生徒が身に付けた「思考力・判断力・表現力等」を発揮する学習活動の充実を支援する。

【エビデンスに基づいた検証改善】

- ・ EBE協議会や町教委訪問、教育長会議等を活用し、より一層の学校種間連携・接続を図りながら、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習指導の充実と学習状況の改善を図る。

【ICTの活用などによる学習習慣・生活習慣の確立】

- ・ 望ましい学習習慣・生活習慣の確立を目指し、EBE協議会や町教委訪問等において好事例を共有するなど、授業と家庭学習の往還による効果的な取組の推進を図る。

【オール檜山「学び合い」プロジェクトの取組の推進】

- ・ 算数・数学、外国語の系統的な指導やICTの効果的な活用について、管内や他地域の好事例や授業モデルを共有するとともに、地域課題の解決に係る協議を通して、管内課題の解決に向けて取組を推進する。

上川管内の状況及び今後の改善方策

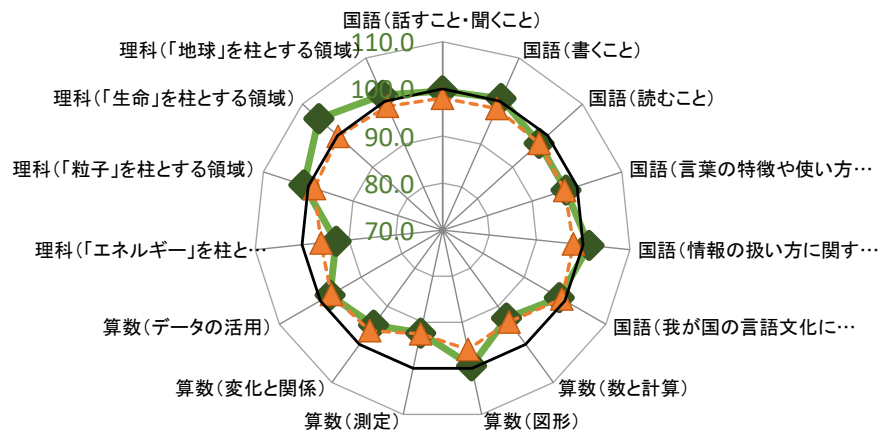
小学校数:103校、児童数:3092人 中学校数:59校、生徒数:3012人

○ 教科に関する調査の状況

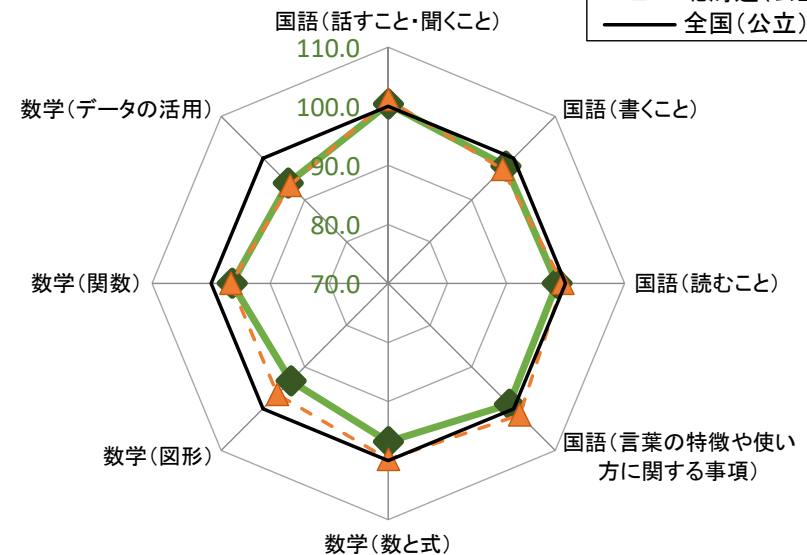
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校

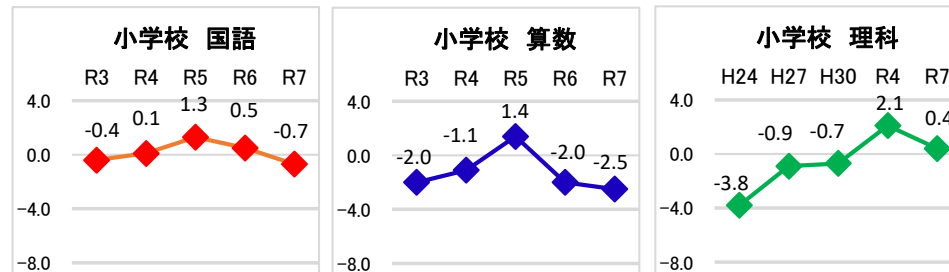


【平均正答率・平均IRTスコア】

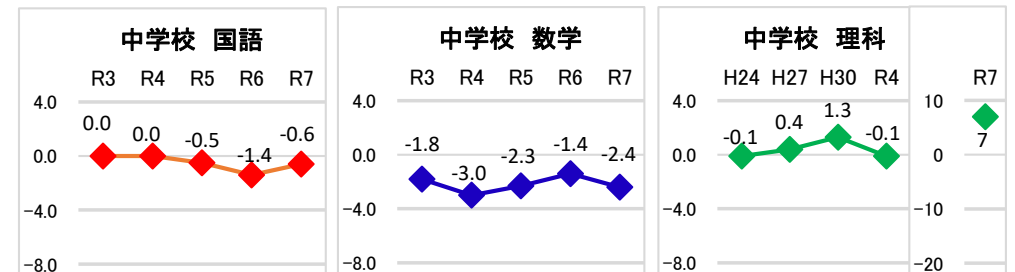
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
上川管内	66.1	55.5	57.5	53.7	45.9	510
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

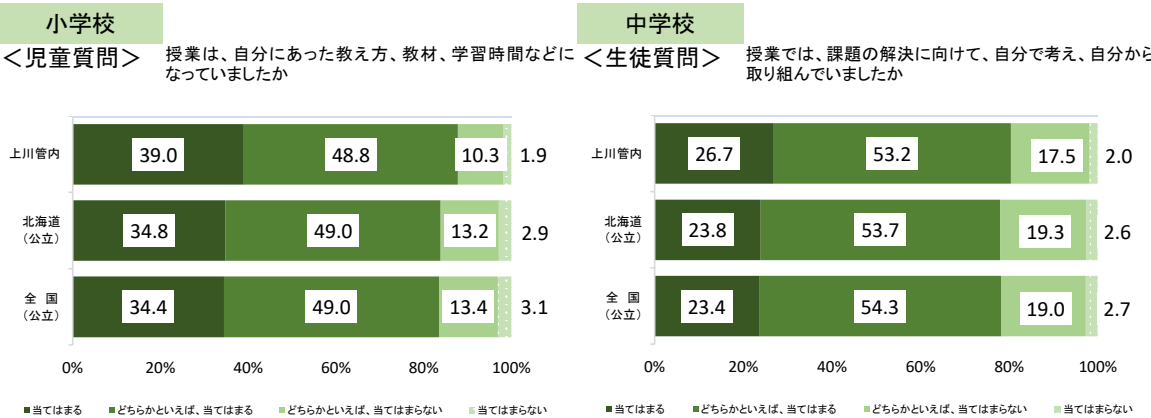
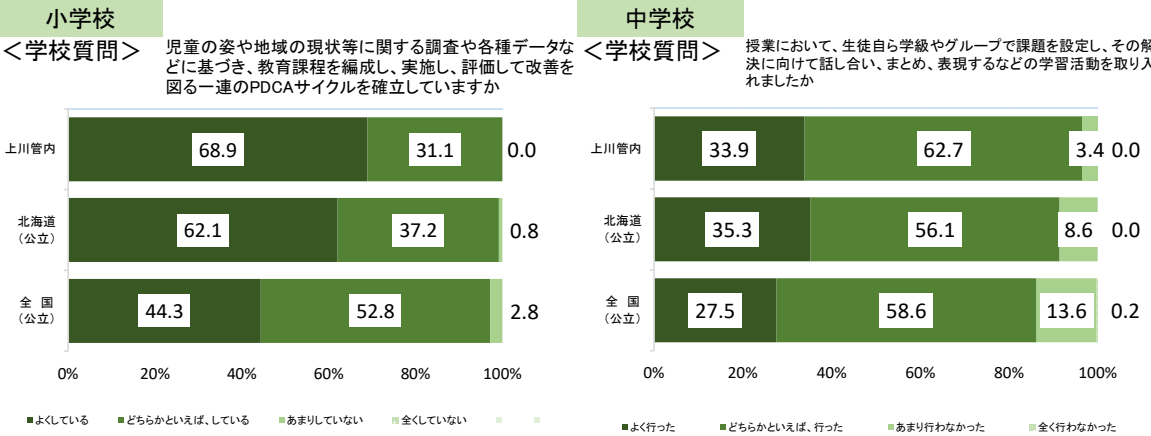
【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】



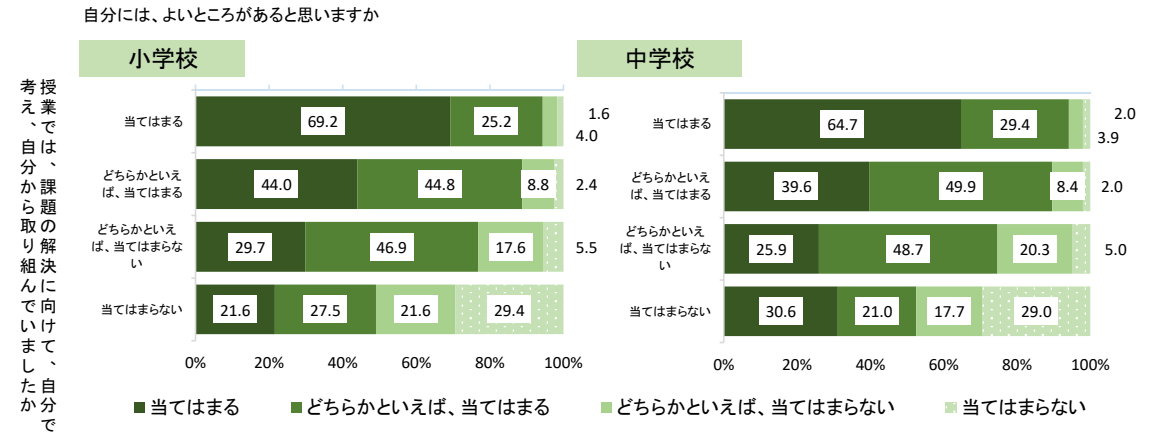
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



<クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)>



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立し、授業改善が図られたことにより、「自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動をよく取り入れたと回答した学校の割合が全国を上回っているが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいない」と回答した生徒の割合が約2割であることから、学校の取組が全ての生徒の主体的な学びの実現につながっていないと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「自分にはよいところがある」と回答している傾向が見られたことから、児童生徒の主体的な学びと自己有用感に一定の相関があると考えられる。

○ 具体的な改善方策

【教育課程の検証改善サイクルの充実】

- ◆ EBE協議会と授業改革担当者協議会の連動
 - ・ 年3回のEBE協議会と授業改革担当者協議会を連動させて実施することにより、教育課程の検証改善サイクルと授業改善が一体的に図られるように各校の取組を推進する。
- ◆ 子どもの主観的評価を指標とした取組評価の実施
 - ・ 児童生徒の主体的な学びに係る児童生徒アンケートを全ての小・中学校及び義務教育学校の全学年で年複数回実施することにより、児童生徒の姿の変容を成果指標とした検証・改善を図る。

【主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善】

- ◆ 授業改革担当者協議会の実施
 - ・ 管内全ての校内研修担当者を対象とした授業改革担当者協議会を実施することで、校内研修を中心とした学校全体の授業改善を推進する。
- ◆ 教育局ポータルサイト「上川IPPO」の管理・運用
 - ・ 教育局独自のポータルサイトを運用し、管内課題や教員のニーズに応じた授業改善の好事例を発信するとともに、各種研修や指導主事による学校訪問等の機会にポータルサイト内の実践例を活用した演習・指導助言を行うなど、ポータルサイトの活用促進を図る。

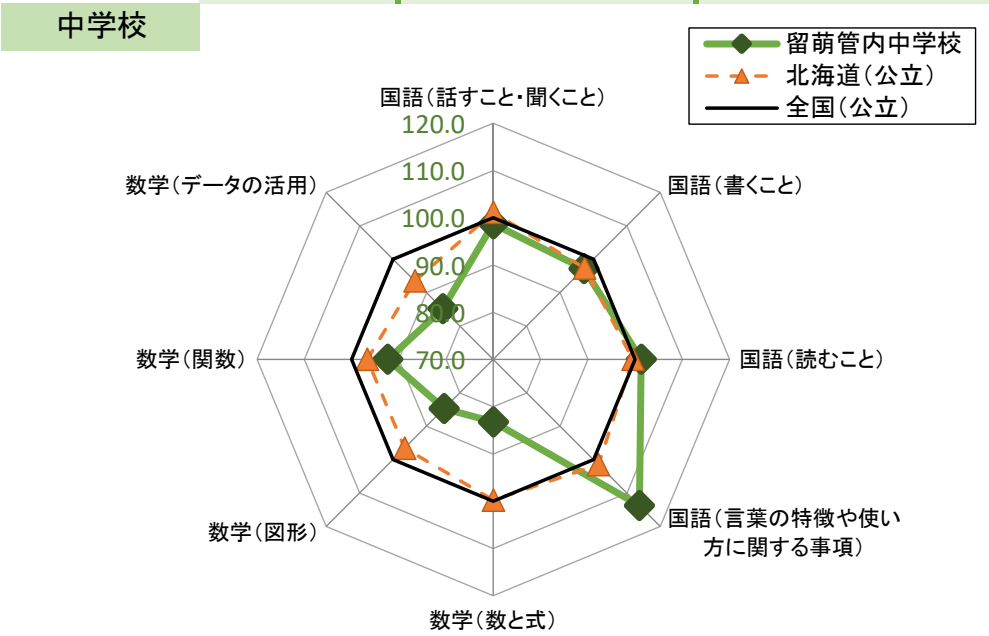
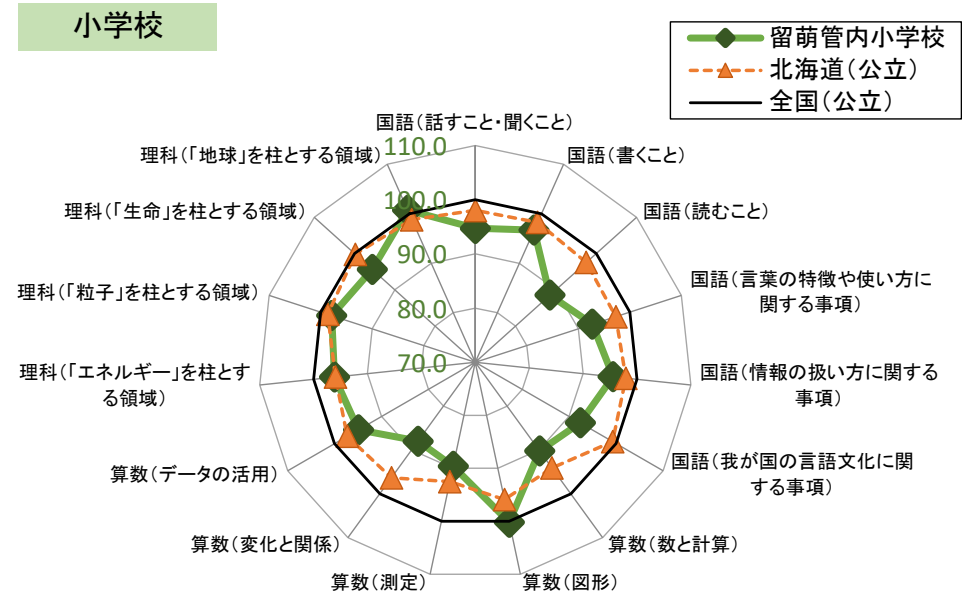
留萌管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:16校、児童数:232人 中学校数:11校、生徒数:244人

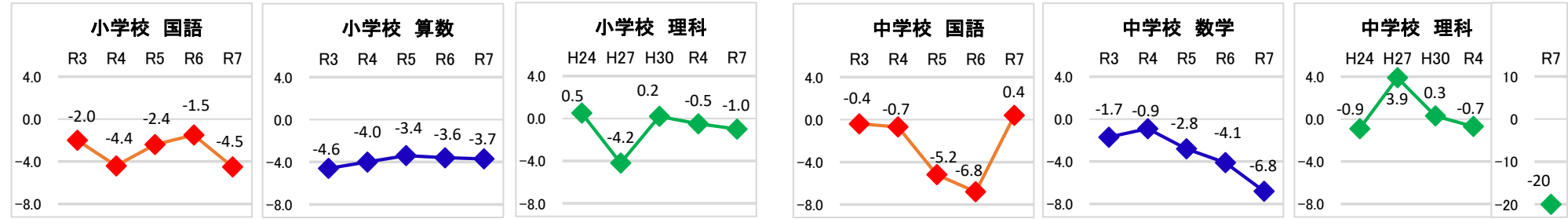
○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

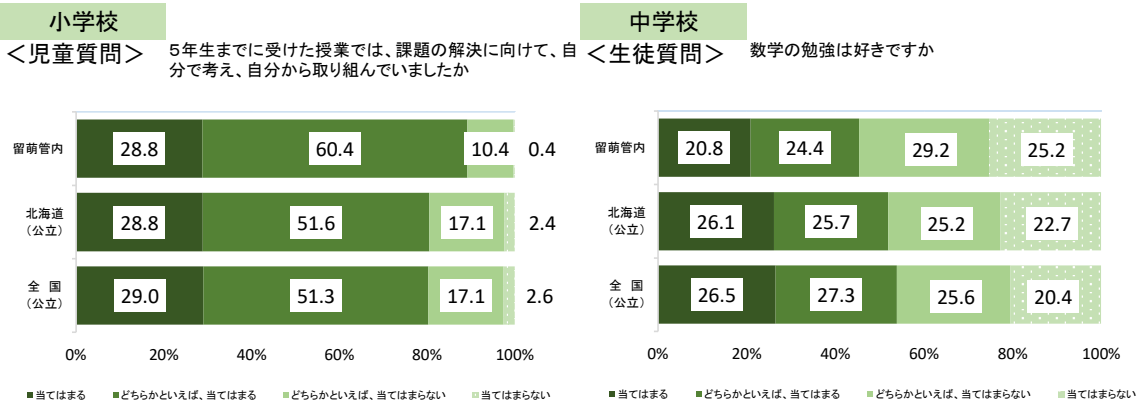
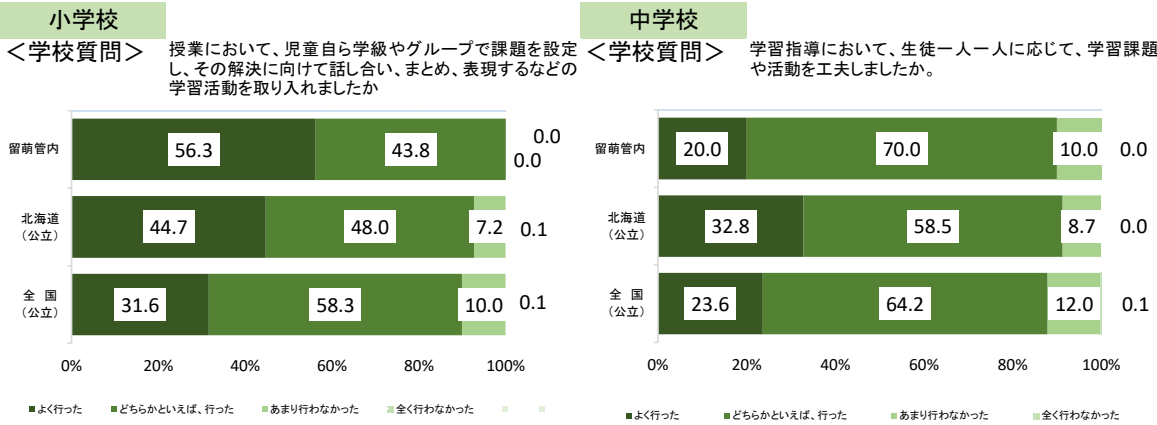
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



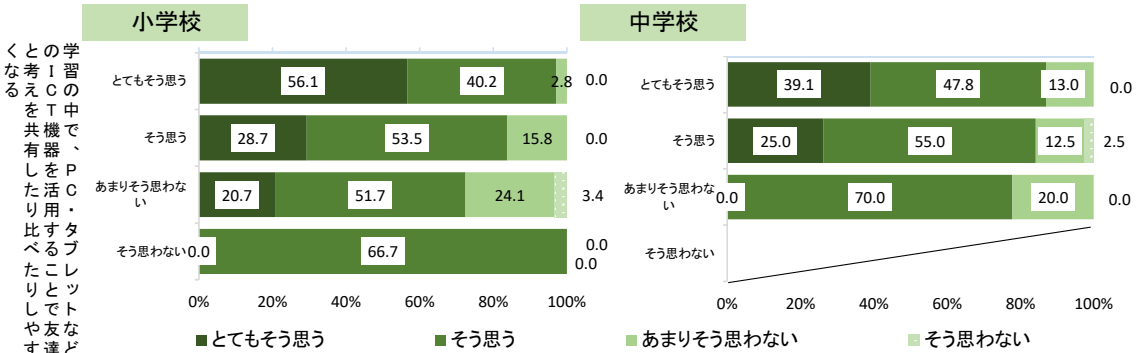
【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】



○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞
学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている



○ 調査結果の分析

- 小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- 中学校において、「数学の勉強は好き」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動をよく工夫した」と回答した学校の割合が、全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達(生徒)との間で自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 小学校及び中学校において、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか(小中30)と回答した学校の割合が全国を上回っているが、中学校国語を除く小中学校の各教科の平均正答率は全国及び全道を下回っていることから、今後も継続して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた授業改革及び授業改善に向けて、条件の意図的な設定、個別指導の手立ての準備など、言語活動の一層の充実に向けた検証改善について指導助言を行う。
- 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりの勉強する時間(小中17)において、1時間以上勉強していると回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることから、学習習慣、運動習慣、読書習慣など望ましい生活習慣の確立に向けて、学校・家庭・地域が一体となって学習習慣や環境づくりに関する協議や熟議の充実に向けた指導助言や研修会の開催及び授業と家庭学習が連動した実践について、事業等の成果を普及する。

宗谷管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:34校、児童数:367人 中学校数:21校、生徒数:353人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

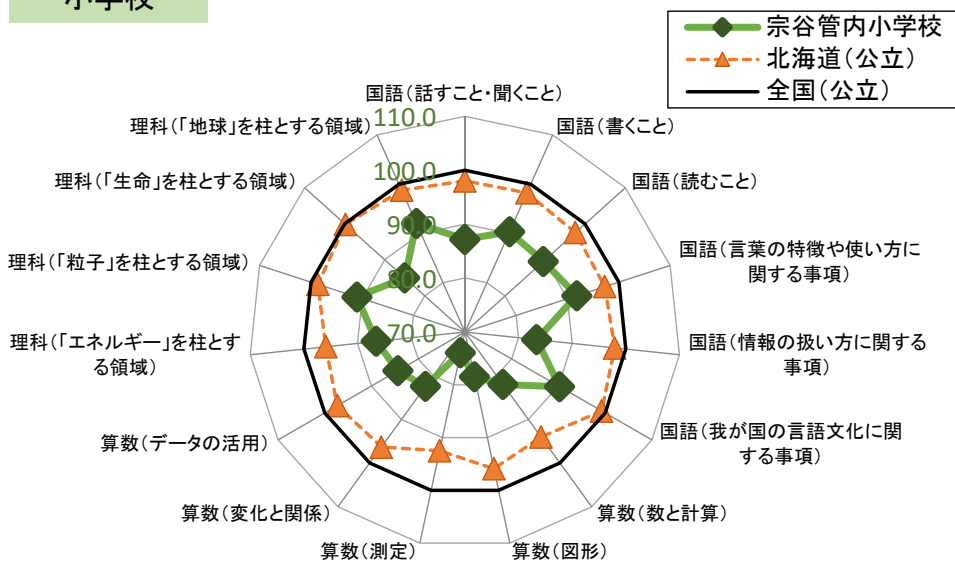
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

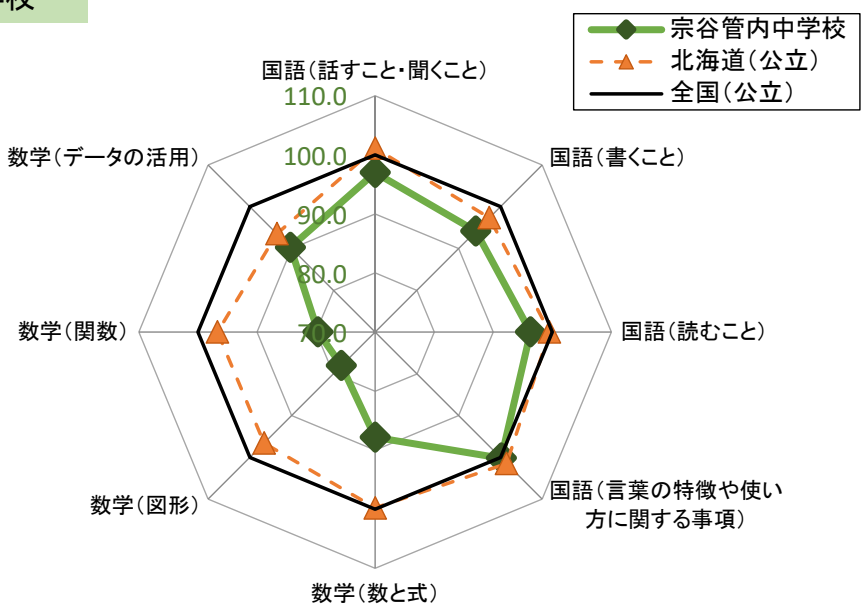
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
宗谷管内	59.6	46.7	51.1	52.2	40.7	473
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

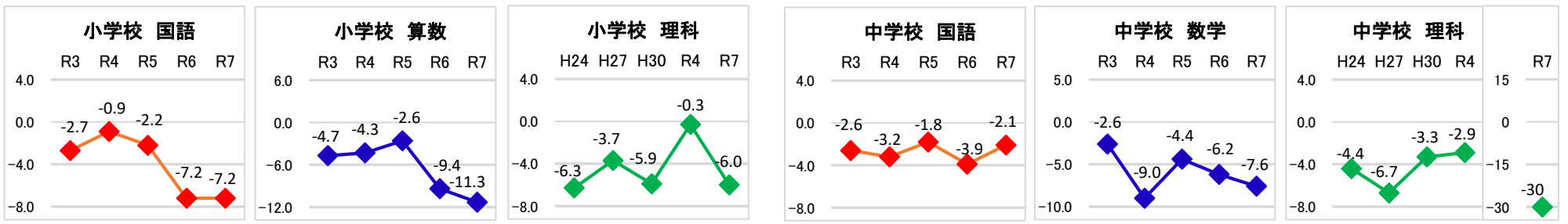


中学校

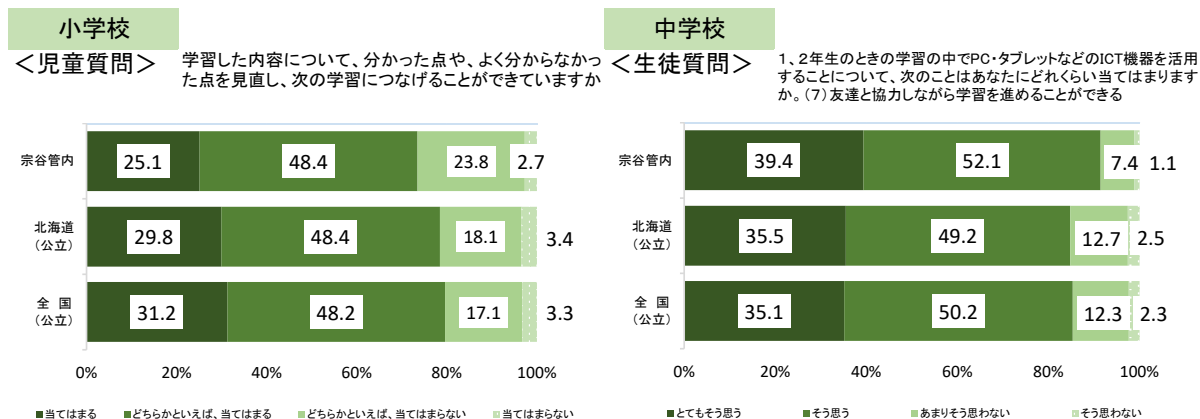
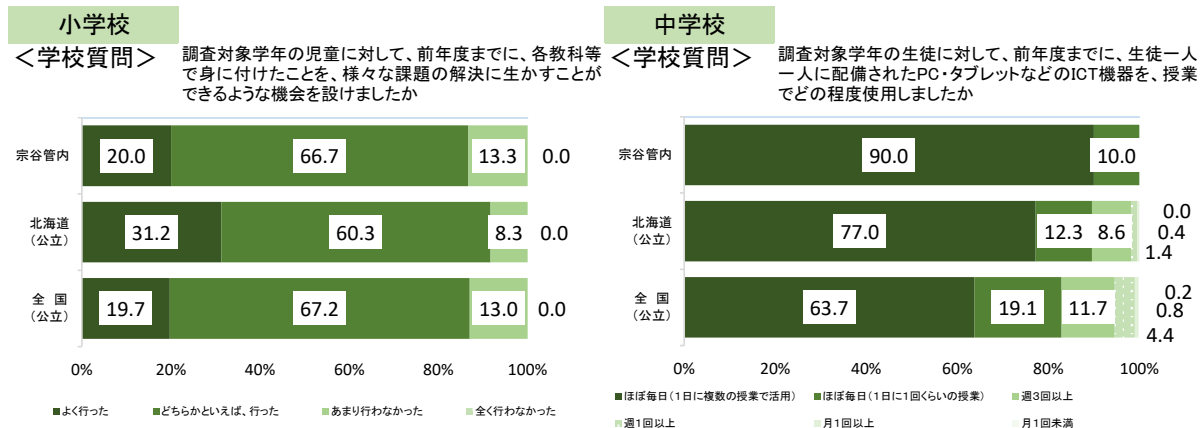


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

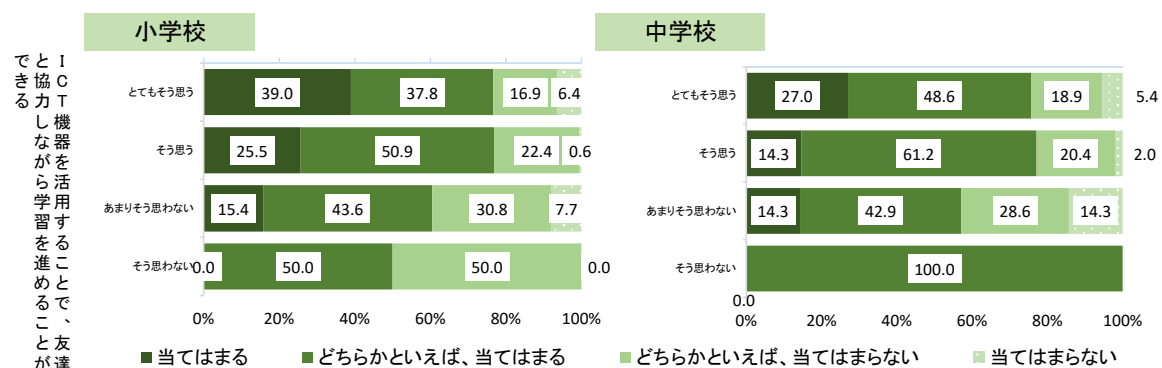


○ 質問調査の状況



＜クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）＞

自分と違う意見について考えるのは楽しい



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童の割合が全国及び全道を下回っているのは、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたと回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 中学校において、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でほぼ毎日使用したことにより、「友達と協力しながら学習を進めることができた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、ICT機器を活用することで、「友達と協力しながら学習を進めることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ 検証改善サイクルを踏まえた組織的、計画的な取組の推進と短期的な検証の機会を設定するため、管内学力保障会議と管内EBE協議会の関連を明確にし、教育局、市町村教育委員会、学校が一体となった取組を推進する。
- ・ 各学校が各種調査等の分析結果を授業改革に効果的に生かすことができるよう、学校教育指導訪問において検証改善サイクルシートを活用した授業改革について助言をするとともに、管内EBE協議会において、授業改善プランを作成し、授業改革の取組の具体を教育局、市町村教育委員会、学校が共有する。
- ・ 管内の授業改革推進会議を計画的に実施し、各市町村の推進教員が全国学力・学習状況調査等の結果に基づく授業改革の方策及びICTを効果的に活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に係る授業展開について協議を行うとともに、各市町村に普及する。

オホーツク管内の状況及び今後の改善方策

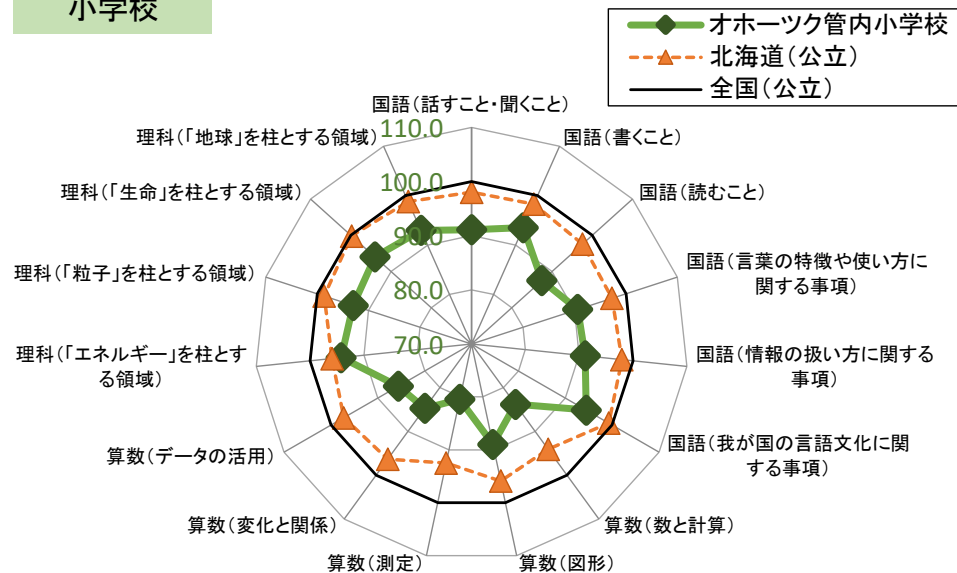
小学校数:70校、児童数:1732人 中学校数:49校、生徒数:1819人

○ 教科に関する調査の状況

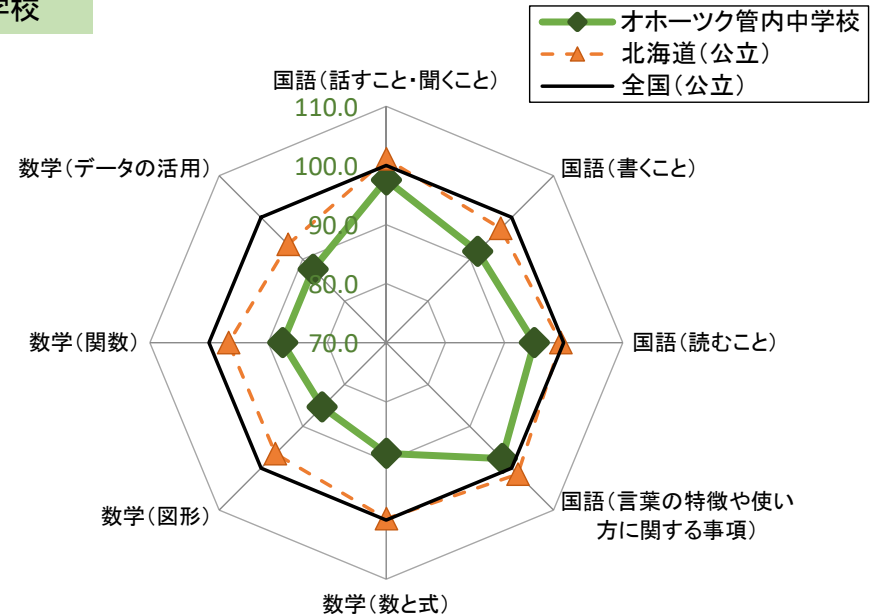
【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

小学校



中学校

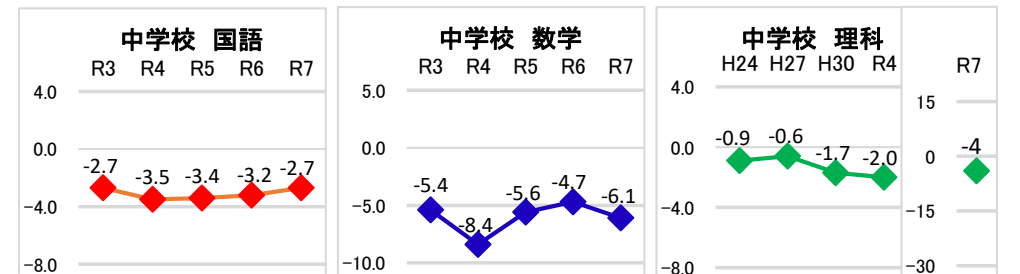
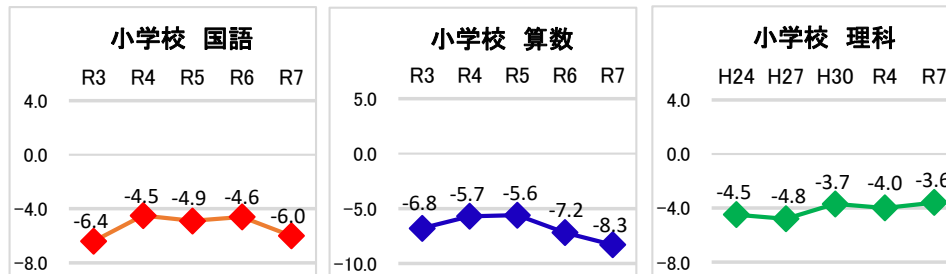


【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

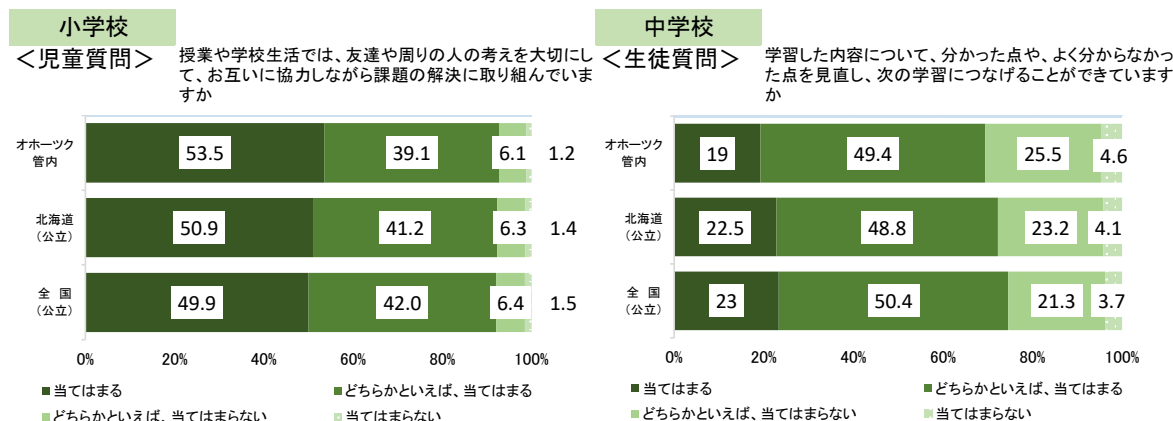
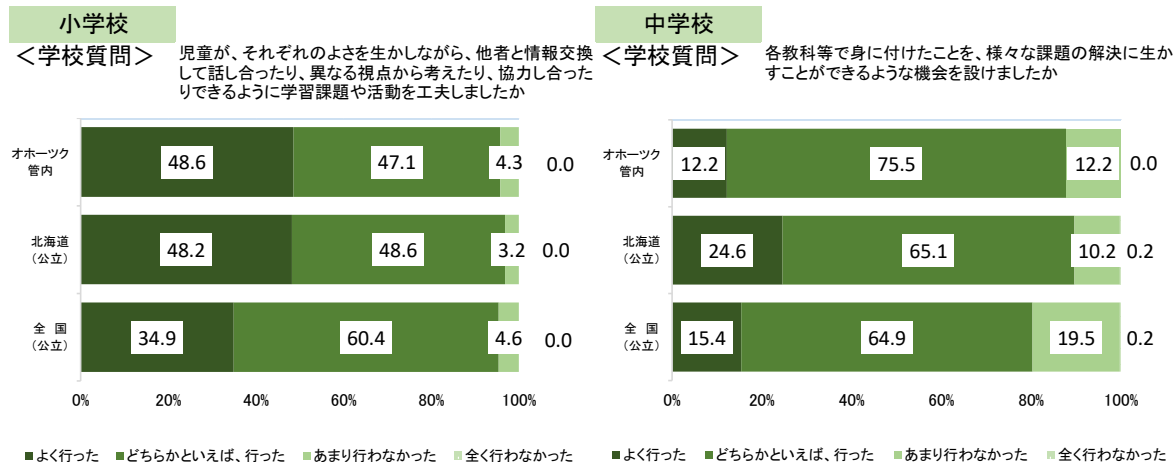
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
オホーツク管内	60.8	49.7	53.5	51.6	42.2	499
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】



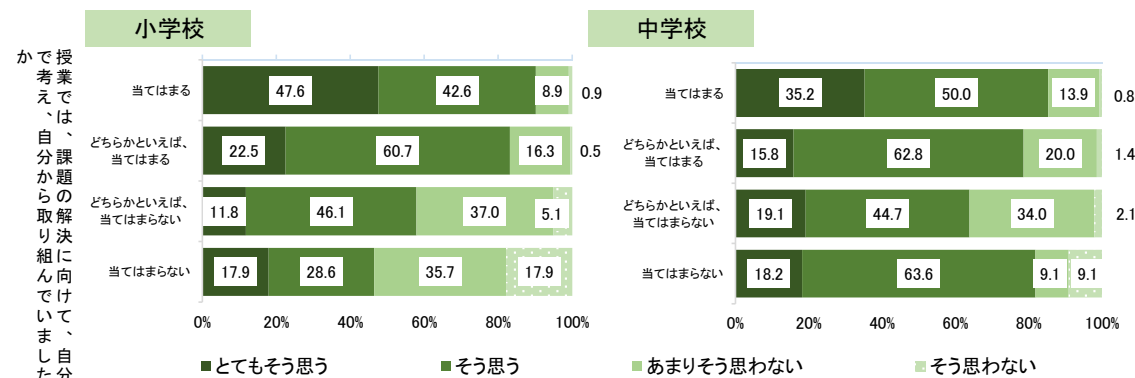
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞

ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



○ 調査結果の分析

- ・小学校において、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、「友達や周りの人の考えを大切に、お互い協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・中学校において、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・小学校及び中学校において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

【「思考力・判断力・表現力等」の育成に向けた授業改善】

- ・育成を目指す資質・能力を明確化し、指導事項を意識した単元及び本時の構成となるよう指導助言する。
- ・自分の考えを発表したり話し合ったりする活動を、自分の考えを「具体的に書く」活動に結び付けるとともに、書かれた内容を教師が適切に評価し、指導に生かすなど、「思考力、判断力、表現力等」の育成に向けた授業改善について指導助言する。

【教員のICTの利活用に係る指導力の向上】

- ・児童生徒が「効果的に活用できた」と実感できる活用方法の検討など、資質・能力の育成に向けた利活用について指導助言する。
- ・教育局独自研修として、新しいかたちの学び授業力向上推進グループと連携した研修会を実施し、教員のICTの利活用に係る指導力の向上を図る。

【中学校区における授業改善や教育課程の接続等に係る取組の推進】

- ・学校教育指導における「小中連携型」の対象地域を広げ、小・中学校が一体となった授業改善に係る取組や、教育課程の接続について指導助言する。
- ・義務教育指導監による学校経営訪問、指導主事による学校教育指導において、中学校区の取組モデルの普及を図る。

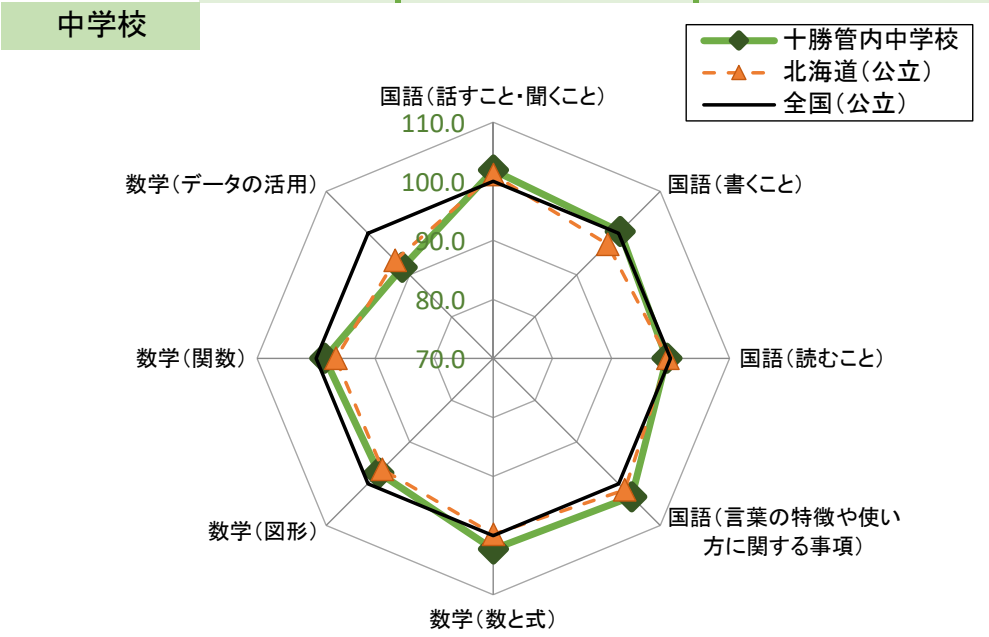
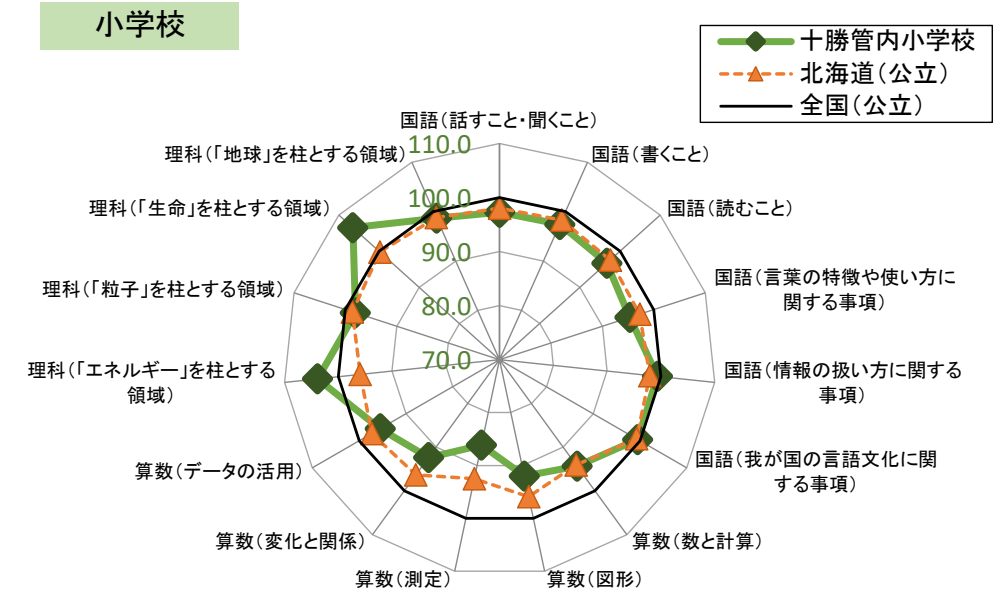
十勝管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:80校、児童数:2322人 中学校数:48校、生徒数:2349人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。



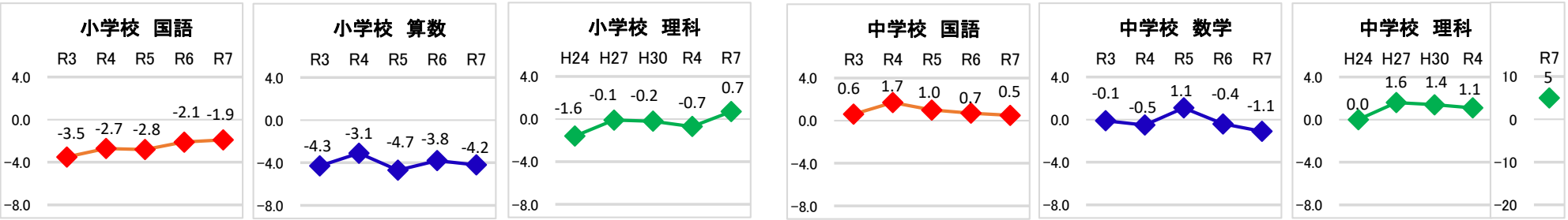
【平均正答率・平均IRTスコア】

※中学校理科は平均IRTスコア

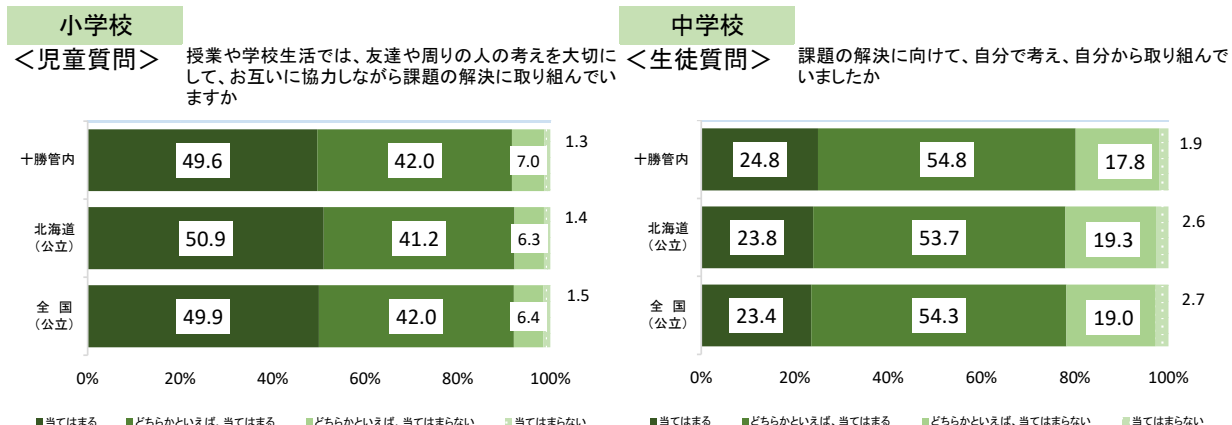
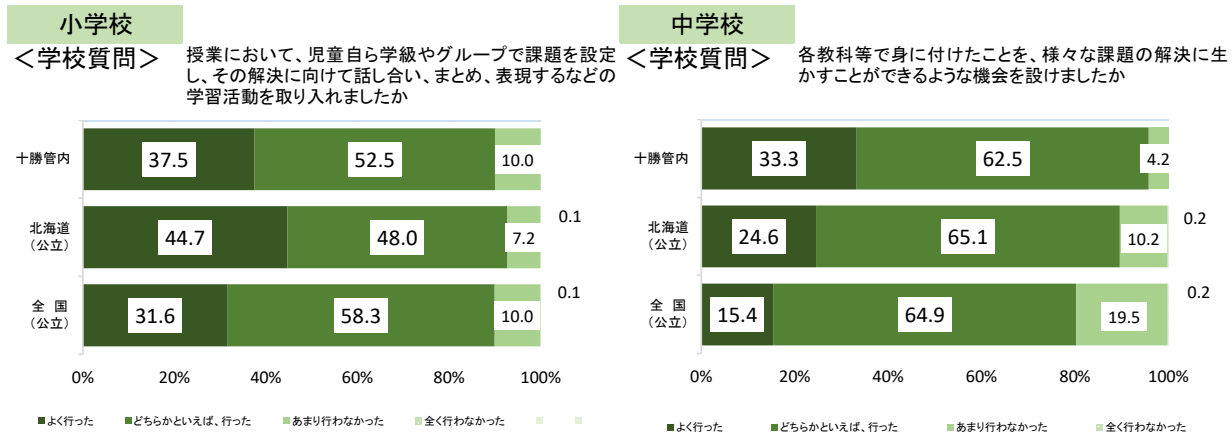
	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
十勝管内	64.9	53.8	57.8	54.8	47.2	508
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

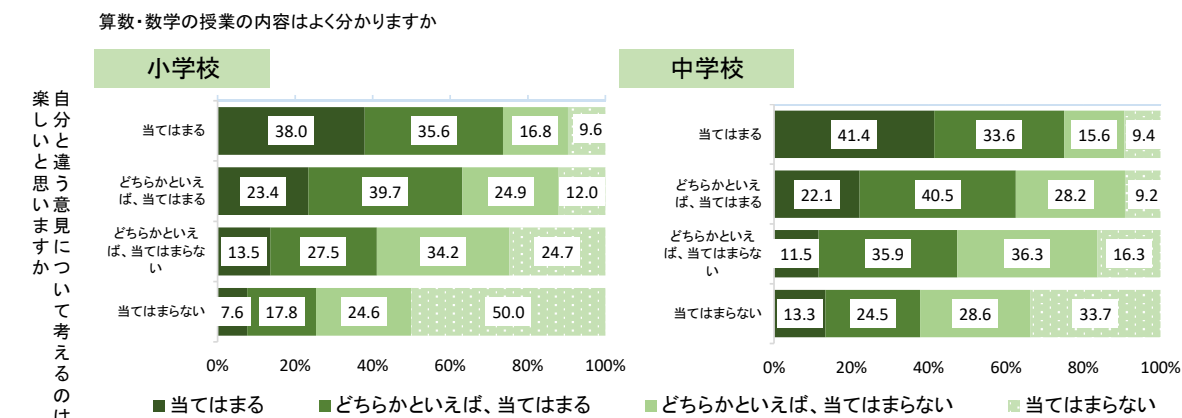
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



＜クロス集計(児童生徒質問×児童生徒質問)＞



○ 調査結果の分析

- ・小学校において、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると回答した児童の割合が全国及び全道を下回っている状況は、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたと回答した学校の割合が全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・中学校において、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した生徒の割合が全国及び全道を上回っている状況は、「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けた」と回答した学校の割合が全国及び全道を上回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・小学校及び中学校において、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思う」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「算数・数学の授業の内容はよく分かる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- ・ウェルビーイングに係る主観的認識のエビデンス把握に基づく子どもの姿を共通の視点として教育活動を検証する取組を推進するとともに、第1四分位に満たない層の児童生徒への手立てを検討・実施する。
- ・他者との交流等を通して、考えをまとめ、表現する場面において、ICTを活用した授業展開の工夫として、知識及び技能等を活用し、自分の考えをまとめる活動の重要性と視点を明確にした交流場面におけるICTの効果的な活用を推進するとともに、指導と評価の一体化に向けた学習の成果を見取る評価問題の改善を図る。
- ・家庭学習の目的の明確化、ICTを活用した児童生徒一人一人に応じた学習習慣の定着に向け、ICTを活用した、学習状況の視覚化等による家庭学習の自己決定の場面を設定するとともに、授業との連動を図った家庭学習の充実を図る。

釧路管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:52校、児童数:1231人 中学校数:35校、生徒数:1283人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

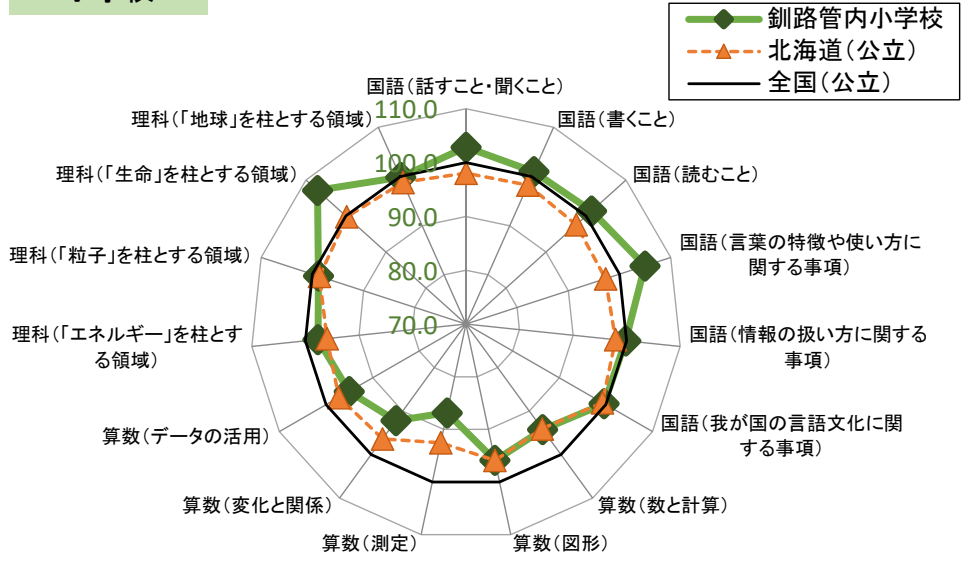
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

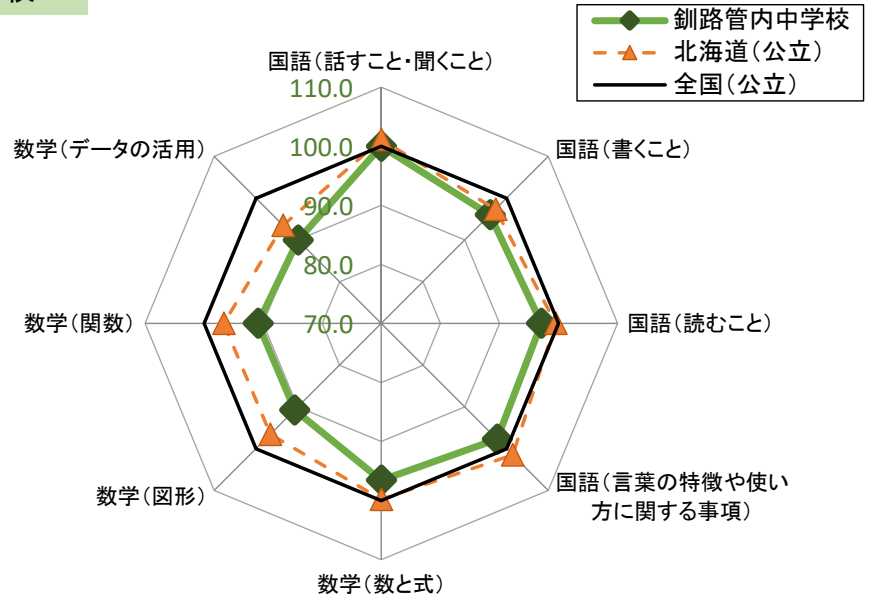
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
釧路管内	68.2	54.6	57.7	53.0	44.5	49.4
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	50.5
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	50.3

小学校

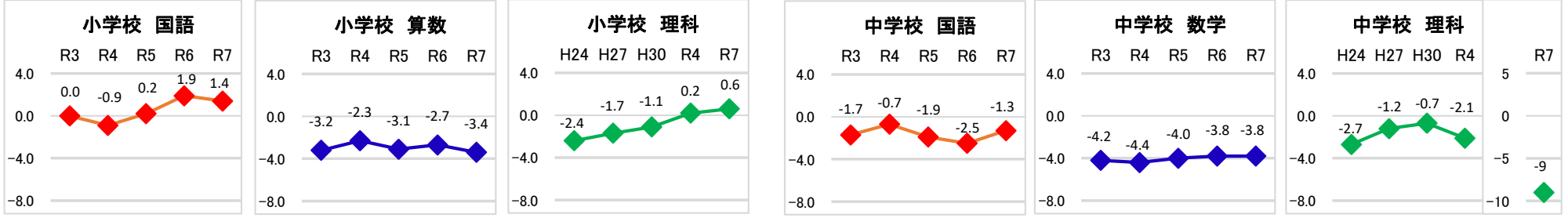


中学校

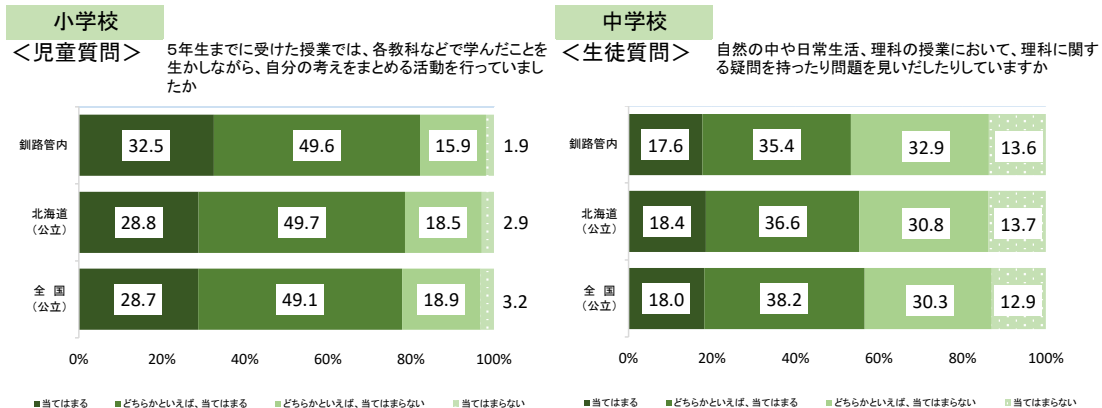
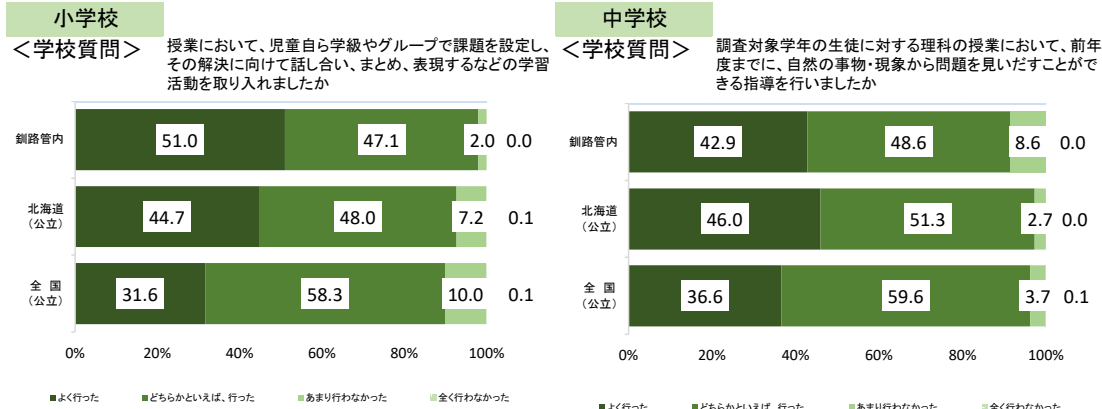


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

※R7中学校理科は平均IRTスコアの差

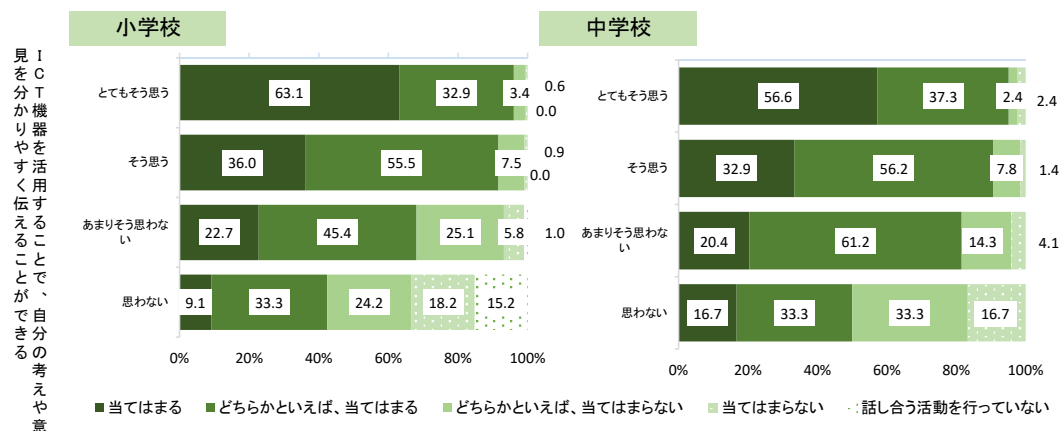


○ 質問調査の状況



＜クロス集計（児童生徒質問×児童生徒質問）＞

学級の友達[生徒]との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができる



○ 調査結果の分析

- ・ 小学校において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたことにより、「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っている」と回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。
- ・ 中学校において、「自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問をもったり問題を見いだしたりしている」と回答した生徒の割合が全国及び全道を下回っている状況は、理科の授業において、自然の事物・事象から問題を見いだすことができる指導を行ったと回答した学校の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- ・ 小学校及び中学校において、「ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」と肯定的に回答した児童生徒ほど、「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることができる」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 【エビデンスに基づいた検証改善サイクルの充実によるカリキュラム・マネジメントの推進】
- ・ 義務教育指導監、指導主事による指導助言等により、学力向上に係る学校課題の改善に向けた方向性と具体策を明確化することを通して、学力向上に係る取組の成果と課題について教職員間の共有を促すとともに、児童生徒が見方・考え方を働かせることを意識した授業の日常の実施に向けた検証改善サイクルを図り、平均正答率及び各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成する学校の割合の向上を目指す。

【自立した学習者を育む個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実】

- ・ 児童生徒が主体的に学ぶ機会を位置付けることや、指導と評価の一体化を図った指導計画の在り方の理解を促すとともに、1人1台端末を含む個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進を図り、授業において、児童生徒が分からないことやわくわく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫する児童生徒の割合の向上を目指す。

【探究的な学びを軸とした学びの充実】

- ・ 教育局主催の研修等を通して、各教科等の学習と総合的な学習の時間を往還させながら社会で生きて働く資質・能力を育成することの重要性や探究して学ぼうとする児童生徒の姿勢を育むことに向けた取組への教員の理解を深めることを通して、自分と違う意見について考えるのが楽しいと思う児童生徒の割合の向上を目指す。

根室管内の状況及び今後の改善方策

小学校数:23校、児童数:480人 中学校数:19校、生徒数:459人

教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

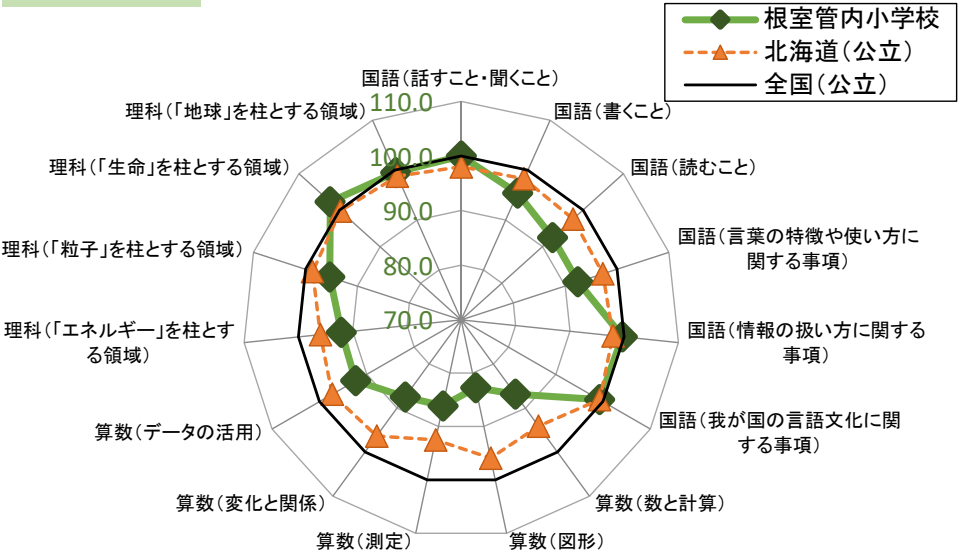
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したもの
(管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません。

【平均正答率・平均IRTスコア】

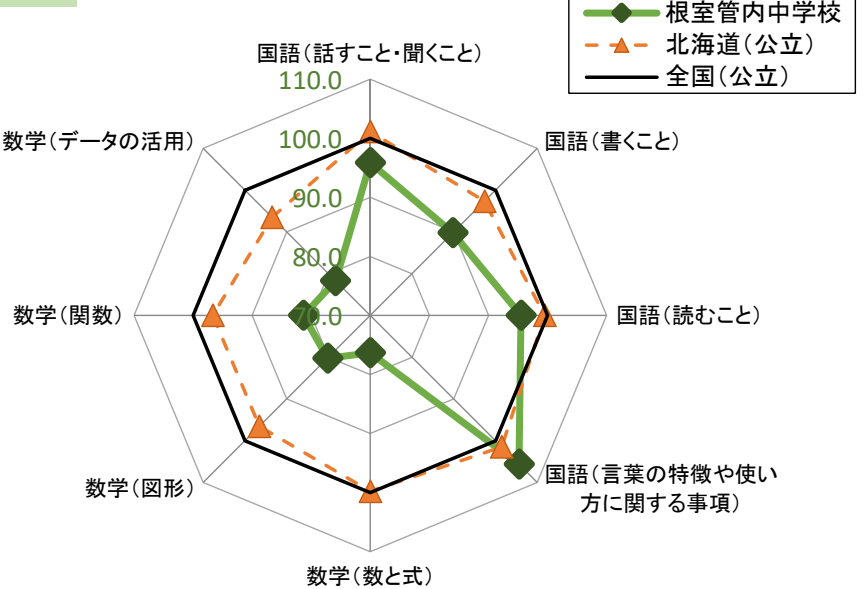
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
根室管内	64.0	49.8	56.0	51.5	38.0	473
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	505
全国(公立)	66.8	58.0	57.1	54.3	48.3	503

小学校

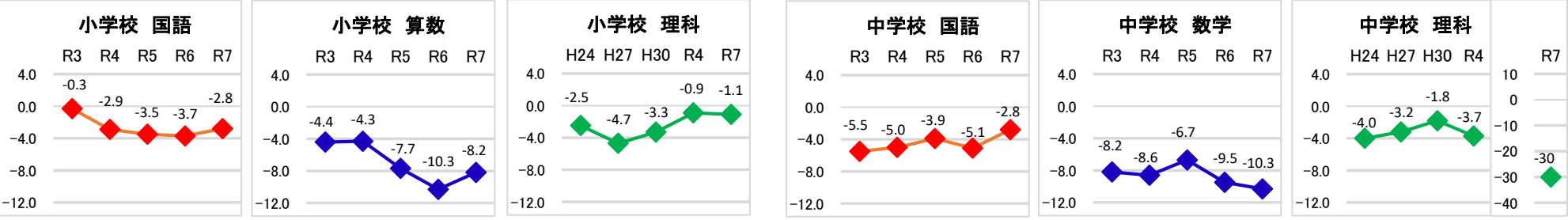


中学校

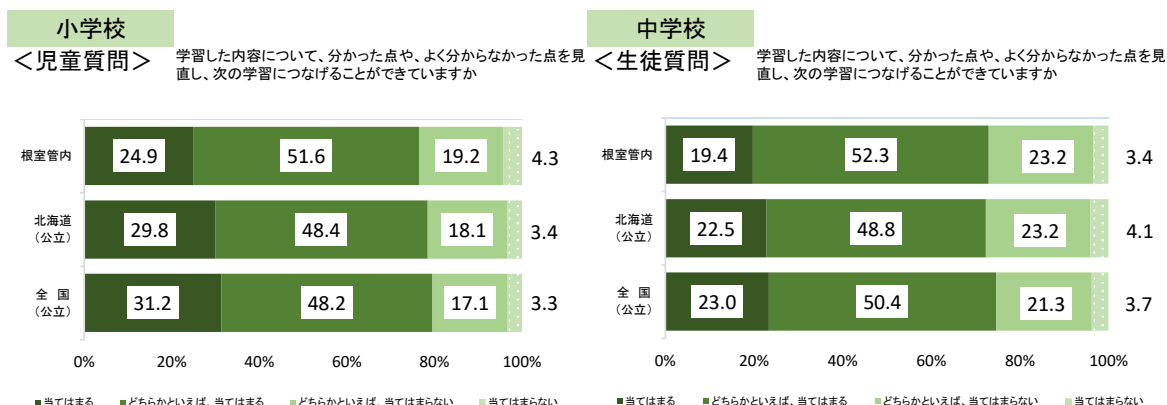
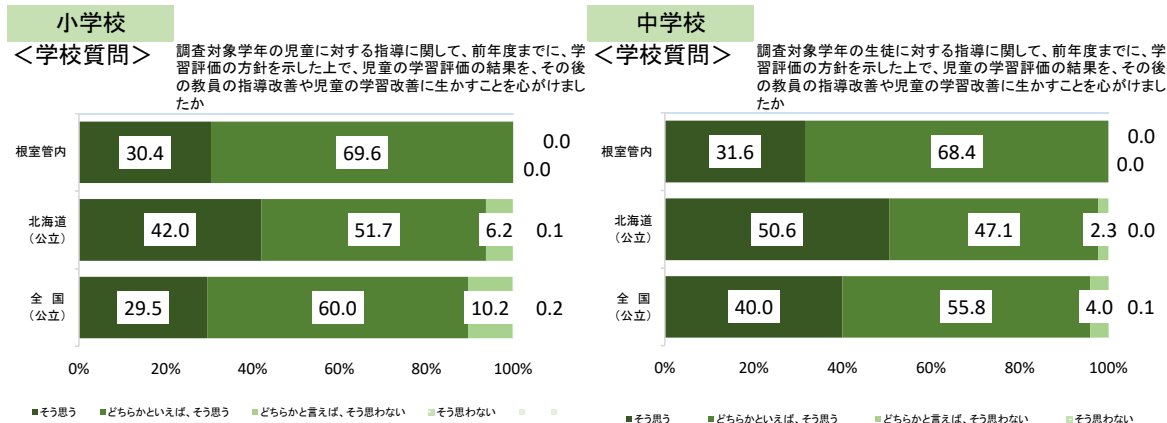


【全国と管内の平均正答率・平均IRTスコアの差】

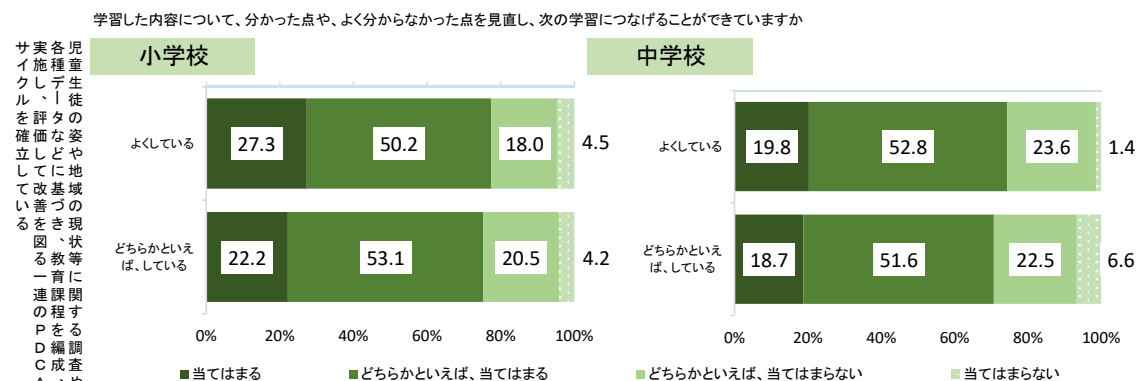
※R7中学校理科は平均IRTスコアの差



○ 質問調査の状況



＜クロス集計（学校質問×児童生徒質問）＞



○ 調査結果の分析

- 小学校及び中学校において、児童生徒に学習評価の方針を示した上で、児童生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かすことを心がけていると回答した学校の割合が全国及び全道を上回っているものの、各教科の平均正答率が全国及び全道を下回っている状況は、学習した内容について、「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した児童生徒の割合が全国及び全道を下回っていることが、要因の一つとして考えられる。
- 小学校及び中学校において、児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していると回答した学校の児童生徒ほど、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答する傾向が見られた。

○ 具体的な改善方策

- 児童生徒の学習評価の結果を教員の指導改善や、児童生徒の学習改善に生かすなど、単元等の短期的なサイクルによる検証改善サイクルの質的向上を推進することにより、児童生徒が着実に力を付ける教育課程の改善を図る。
- 生活科、総合的な学習の時間における教科等横断的な視点での学習や、各教科等における探究のプロセスを踏まえた学習の充実により、児童生徒が課題の解決に向けて自分で考え、自分で取り組めるよう授業改革を推進する。